

171

381
101

眞の強力政治は如何になすか

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



序

昨年十一月某氏より日本の強力政治に就て意見を聞かされたのが動機となり、之に就て平常より考へてゐたことを系統的に纏めかゝつた。そして、やつと之が纏まつて了むやうになつた時に本富士署の暴刑事に襲はれて非常な屈辱を受けた為め、考が目茶苦茶になつた上に健康まで言した。思索的生活者には一寸の刺戟でも非常に精神的の混乱を招くものである。頭が平靜になり、健康を恢復し、再び思索的生活に入り得るまで一ヶ月もかゝつた。

かゝつた打撃を受けた處へ、更に知人が上京したり、病氣にかゝつたりして益々纏め上げるのが遅くなつた。昨年中に纏め上げる心算だつたのが三月末になつても研究反省せねばならぬ處が多々あり、今一度出直したのであるが、さうも出来ぬので、大なる缺點を有する二三の項目だけを省い印刷することをした。

強力政治に就て多くの人は誤解して之を狂力政治と同一視してゐる。支配者が其の根本を忘れ、機構の末に一生懸命になり、國民を官しつけて之に追従せしめる如きとでは強力政治はできぬ。

強力政治は國家の実質を強力にする政治にて、國家の個性を理解し、其の根本に觸れなければ之を行ふことができぬ。我が支配者達は、國家の個性をも理解せず



日本精神にも解れず、唯機構の改善によつてのみ國力を強力にせんとする。故に
する事、なす事悉く要点を外れ、其の強力が常に狂力に変質し、尚、將來も変質
するであらう。

日本の國家は外國と其の個性を相違する。日本は役人や天才を當にする制度で
は國家は強力にならぬ。日本にはカント、マルクス、ヒトラー、ムソリニの如
き型の天才は出ぬ。其の代りに國民一般が優秀である。『朝に道を聞けば夕に死
すとも可なり』といふやうな言葉は我が國の下層の人達でもよく理解するが、外
國では上層の人層でも容易に理解せぬ。外國では大天才や中天才が沢山ある代り
に、國民一般は愚鈍である。日本では民衆が優秀であり小天才が沢山ある代りに
大天才や中天才に乏しく、上層は何れの國の上層より愚鈍である。此の社会的事
情が外國では大天才、中天才の能力を當にし之に信賴する統制の文明が發達し、
日本では國民の優秀性や小天才の能力を當にし之に信賴する綜合の文明が發達し
た。若し、外國で大天才、中天才を除外し、愚鈍な民衆を全的に信賴する綜合の
制度が發達したり、日本で優秀な國民や沢山ある小天才を除外し、愚鈍なる上層
の能力を當にする統制の制度が發達したのでは國家の強力は不可能である。當に
なるものを當にするならば如何なる結果となるか個人の場合も國家の場合も同
じことである。

かゝる点を理解せず、西洋の型を追うて強力政治を布かんとするのであるから、
所謂『強力』の進行につき、強力が狂力となり、一方では独善的の官吏を増加せ
しめ、他方では國家の内部を衰弱せしめてある。物價高の暴力の如きは、現代政
治の実体を最も端的に現したものである。

如何に非常時と雖も、物資の必需者には出来るだけ安く売らせたり、利用せし
めたりしなればならぬ。殊に、出征者の遺家族に對して然りである。只、金持
とか、奢侈や享樂に使用するものに對してだけは思ひ切つて高價に売りつけても
支障ない。にも拘らず、金持も貧乏人も出征者の遺家族も、又、実用に供するも
のも奢侈的に供するものも見境なく、一律に高價に売り付けるやうにしてある。
其の結果、不公平な社会は益々不公平になつて行き、貧乏人や出征者の家族は愈
々浮はれなくなる。こんな無慈悲な政治があるであらうか。政治家や役人達が、
陛下の一分子として活躍してゐる以上は、先づ、國民に對して親切で豊富な親心
を持つてゐなければならぬ。親心を以て、少し工夫をすれば、かゝる矛盾はなく
なる。此の親心は、國家と國民との個性が判らなければ發揮する事ができぬ。

物は勢である。勢旺んなれば如何なる無理も通る。彼等は非常な勢を以て、統
制々々、強力々々と言つて國家を改善せんと企て、ある。彼等の勢に押され、世
をあけて迎合し、『野に幫同なし』といふ有様となつた。當分は其の勢に駆られ、

何人と雖も之を阻止することは不可能であらう。

併し、無理は必ず通らなくなる時期が来る。大なる無理をしたものは、大なる反動が来り、没落がある。政党、共産主義、其の他の没落にして無理の反動でないものはない。

我等の研究は大衆の共鳴を得んがためにするものでない。與ふべくは多少なりとも彼等の脱線を善處し、且つ、來るべき反動に貢獻せんがためである。而して此の出版は、纏つたゞけ整理する意味と、尊敬すべき先輩の叱正を仰がんがためである。

四月二日

著者識

目次

第一章	強力政治にも個性を有す	一
第二章	人間の群居性と日本人の團結	七
第三章	我等の協 <small>共</small> 性と特異の忠義思想	元
第四章	國家の精神的統制と財産制度	四五
第五章	日本の統制の基礎は生活の統制である	六三
第六章	日本では指導者を當にする 制度では強力政治は出來ぬ	八一
第七章	物資と物價とを如何にして統制すべき	三三

第一章

強力政治にも個性を有す

現代文明の最も顕著な特長は社会的にも國家的にも政治的にも各、「個性」を發見したとである。但し、日本のみは今以て却々此の「個性」を發見してゐないのである。

歐洲の過去に於ては國民は權威主義の下に支配され、個性は素より個人さへも認められなかつた。支配者や特權者は高慢にして反省力なく、平民を驅使するのを當然の權利とし、平民も其の命令に唯々として服従するのを當然の義務としてゐた。然るにフランス革命に依つて國民は懺悔の平等を贏ち得た。

此の平等の思想は環境論の發達に伴ひて思想家自身も之に魅惑されたし、又民衆も刺戟せらるゝ處多く、勢の激する處、遂に大革命の慘を惹起したのである。則ち、當時の思想家達は口を揃へて、人間は、元來、白紙のやうなもので脳髓内に一定した先天的の結構もなく、特定の方に發達すべき傾向もない個人はたゞ經驗と習慣と联想とに依つて色づけられる、個人間の相違は環境の相違に過ぎない、環境の相違に依つて個人的、社会的の相違が生じ、貴賤賢愚の別が生じたのであると稱へた。此の説には、天分に乏しいものや薄倖のもの

ばかりでなく、多数の優秀者も之に動かされた。人間の不幸は生得の短所に歸因しないで境遇の缺陷に由來し、境遇へ充分に改善したら如何程低級下等の人間でも向上進歩して至高の水準に到達し得られると考へるやうになつた。

併し、如何に環境論の基礎の上に於て盛人に平等論が称へられるにしても、これは希望の産物にして、人間も一般の生物と同様に、或る点まで環境に支配されるが、それ以上は如何とも及び難い先天的の素質を有する。彼等は人間の平等を称へ、環境論をなす前に人間の個性を認め、之を尊重せねばならなかつたのだ。

然るに、ダービン、メンデル等が出現して遺傳の重大さと進化の原理を闡明し、夫の平等論も環境論も根本的に粉碎し、人類思想に大変化を與へた。前述の環境論や平等論は下愚の國粹主義者の手に残り、氣の利いた思想家達は拳つて進化論へと飛躍して個性の尊重すべき所以を称へた。又、これに依つて、個人に對する國家の方針も教育の制度も改善され、個性の尊重が倍加され來た。斯くして、國民個人の個性が尊重されだしたが、國家や社会の個性は却々認められるやうにならなかつた。

彼等は、國家や社会を色づけるものは政治と傳統と歴史と風習とであるとし、民族内部の特異の先天性を依然として認めなかつた。彼等は、國家社会の進歩

を決定するものは民族の先天的素質でなくして境遇であり制度であるとし、これを改善し、且つ、其の環境を上手に統御しなすれば、自己を好きもの例へば、独逸の様に、伊太利の様に、露西亜の様に、英國の様に變化し得るものとした。彼等の言ふ如く、國家社会が環境の所産であるならば、其の分野は畢竟過去の政治、傳統、風習等の環境上の差異に依つて生ずることになる。従つて、此等の環境を理想的なものと差し替へたならば、貧民や不具者の多い地獄の様な國家も忽ち天國の様にならなければならぬ。此の罪なき空想の煽動が、先づフランス革命の大慘事を惹起し、且つ、それ以來、人心を惑はし、屢々革命へと熱狂せしめた中心思想である。而して、又、過去の立法、行政の指導原理も、理想的の環境をつくりなすれば、如何なる理想的の國家も社会も立處に出現するといふ一種の夢を本氣にしたものに過ぎない。現代に於ても佛蘭西と日本の法律や制度には夢が多く、英國や獨逸の夫れには夢が少い。これは、日本と佛蘭西とが自己の個性を度外視して前世紀の遺物たる環境主義であるのに反し、英國や獨逸は自己の個性を把握し、個性の發展と整調とに努力してゐるとの違ひである。

則ち、個人の場合と同様に、國家や社会の場合に於ても、法律、政治、教育等の環境の改善だけでは、其の國家なり社会なりを進歩發達せしめることが出來

ぬ。民族の場合に於ても、觀念の結合の方法、感情、衝動の發展の方向等に如何とも出来ぬ先天的の傾向を有する。之を無視しては如何なる政治も法律も勞多くして効果をあげる事が出来ぬ。政治にしても法律にしても勞少くして効果をあげるには國民の個性を認め、此の個性を發揮せしめるやうにしなればならぬ。善政といふのは、國家又は社会が最大能率をあげる爲め、民族の先天性を如実に發揮助長せしめることである。個人が最大能率を發揮する爲めに個性の基礎に立つ如く、國家社会も最大能率を發揮する爲めに其の個性の基礎に立たなければならぬ。而して、現代に至り、國家間の政治的、軍事的、經濟的の競争が益々烈しくなり、何れの國家も最大能率をあげて生存競争に打ち勝たうとする。かうなると個人の場合と同様に、國家の場合でも、社会の場合でも、その個性が期せずして發揮され、自然に國家、社会の制度の上にも、文明の上にも個性が反映して來た。且つ、又、國家の強力化につれ、組織化につれ、其の文明の發展につれ、此の傾向が益々明瞭となり、表面は兎も角として、其の内容は今や強烈なる個性を有するに至つた。但し、日本だけは例外である。

斯くして、其の國家の有する文明は益々民族的、環境的に個性を發揮せしめる傾向を辿つて來た。藝術、科学、宗教等の如く、原則として、他の力に支配されず、自己で自己を制規するものまで益々民族的の特異の個性を發揮する様

になつた。夫れは、此等の求めんとするものが獨立的であり、且つ、他から制規されないから、最もよく民族的の個性が反映する理である。而して、又、此等の努力の源泉をなすものは、依然として共同社会の中に源を發し、政治、經濟、歴史、風俗、習慣其の他總てと相結んで作用するから、此の意味に於ても自然に國家の個性がこれ等に反映せざるを得ない。尚、又、政治、法律、教育等が加速度的に個性發揮の傾向を辿つたと同様の理由にて、此等の藝術、科学、宗教等も成長に伴ふ組織化、強力化につれ其の個性を發揮する様になつたのである。原始時代の宗教、藝術等は民族的の特徴が少いものであるが、夫れの進歩發達に依つて民族的の特徴も個性もはつきりして來るものである。

此のやうにして、一世紀前までは誰も相違を認めなかつた歐洲各國の文明が其の個性を發揮するやうになり、何人と雖も、夫れが均齊であるといふものがない程、其の相違が判然として來た。従つて、其の文明の良否、進歩退歩は形式の複雑さや理窟の巧拙に依つて決せられるのでなく、其の個性が甘く顯れて能率をあげてあるや否やに依つて決定される。如何に其の文明の外見が華々しくあらうとも、个性的の締括りがなく、肝腎な國民生活が安定せず、一家離散し、社会が四分五裂して相反目し、悪人頻りに横行し、異民族と生存競争すれば立所に敗北するが如きものであつたならば、これは近代文明に似て近代文明

に非ず、若し、之を近代文明の仲間に入れるとしても至つて低度の文明である何故ならば、國民大衆を對称とした色彩が少しも顕れてもゐなければ、又、國民の素質的、國家の環境的の個性が顕れて之を締括つてゐないからである。近代文明は國民大衆を對称とし、國家の個性を顕さなければならぬ。國民を對称とし、其の個性をはつきり顕すには、先づ、其の國民の特異の先天性を知らなければならぬ。

歐洲の古代、中世に於ては、何れの國家も國民も其の特異の先天性のあることを理解しなかつた。たゞ、これを理解しなかつたのみならず、之を不合理な存在とし、野蛮の徴候とし、或は又、罪の深い證據とした。貴族、僧侶は、羅馬又は教會の理想の下に歐洲を統一せんとし、民族的、地方的の個性の發達を總ゆる方法で阻止した。其の被害の最も甚だしかつたのは、最も強き個性を有する自恃的の獨逸民族であつた。

獨逸では教會を中心として貴族、僧侶の勢力が旺盛にして之が國民の社会的發展も個人的發達も、又、國家の統一をも妨げ、獨逸人の獨逸を存へさせなかつた。此の爲め、彼等は政治的にも、社会的にも、個人的にも、いつまでも不幸な境遇に呻吟してゐた。併し、彼等の天才は、ナポレオンの遠征、三十年戦争等に依り弱國の悲哀と國家分裂の不幸とを痛感し、國民の各階級、各職業

を通じて一大統一運動を起し、遂に超多數の國家に分裂してゐた獨逸を統一して、獨逸特異の文明を内容とする國家を建設したのであつた。

かくして統一された新獨逸は、國民の各階級の渾然的統一運動の成果であるから、其の統一運動の延長たる國家の活動も、各階級、各職業を同化し、融和し、はつきりした個性を以て國家最高の使命充實の爲めに組織活動なすに至つた。其の文明の内容は獨逸民族の特異性其物で、彼等の種々の要素、特徴、希望等の國民的特徴が如実に國家の型を支配してゐるのである。現在の獨逸を特にフアッシュヨ國家と呼んでゐるが、其の文明の内容はビスマルク時代の文明其物で、たゞ、これより洗練されて個性がはつきりして來たのと、之が現代化されてゐるのとの相違だけである。

此の獨逸と同様に、英國も佛國も伊太利も其の個性を相違する文明を次第に發達させたのである。過去に於ては一色であり、其の相違を認めなかつた歐洲の文明が、國家に因つて相違を生じ、向後、益々甚だしく人とする傾向を有してゐる。

然るに、日本では文明がかゝる主觀的のものにして個性を有するといふことを未だ理解せぬのである。彼等は、歐洲の中世、上古に於て、貴族、僧侶が文明と指定したとを文明と信じた民衆と同一程度の野蛮な觀念に執はれてゐる。最

近の日本は、非常時の爲め、意識的には大分薄いであつたが、無意識的には、学者も役人も政治家も一般の國民も改米又は其の内の特定の國に似るとが文明の進歩で、改米人により似た生活をするのが文明人の生活だと考へ、其の所謂『文明』の實現に努力し、肝腎な國家の内部的發達も、國家の個性の伸展をも制度の上に反映させるを忘れて顧みず、若し、これを非難すれば、日本精神に入持合せてみれば、パアマネント・ウェイヴでも、パパ、ママでも何でも結構ではないかと、至つて安値に答へる。

かゝる間違つた考へ方は明治維新以來の傳統であつて、これに依り、彼等は無法にも鈇と糊とを以て、無恥にも改米各國の文明の形式方面のみを剽竊して其の精神方面を除外し、何れの文明ともつかぬ一種の文明的標準を拵へた。前にも述べた如く、文明は形式的のものでなく精神的のものである。殊に、其の文明の本体たる個性は深く内部に潜んでゐる。歐洲の如く、過去は同一文明と同一宗教に支配され、現代は交通頻繁にして共通の利害を有したりする爲め、其の文明の形式的方面には共通点が多い。併し、これは文明としての價値に乏しい枝葉の部分である。此の枝葉の部分に屈する形式方面の文明を、共通点が多いからといって『人類共通のものなり』となして、改米各國より丁寧に剽竊して廻つて拵へた標準を組織化したものが我が國の法律、制度となつた。又、

其の標準に従つて國家を支配するものが日本の政治となり、其の標準が合理であるといふ觀念を注入する事が日本の教育となつた。此等の中に日本又は日本人の個性は發見する事が出来ぬ。

斯くして、此の剽竊した標準の下に一切を隷屈せしめ、其の價値を以て總てを評價した。日本在來の事項にして此の標準と自家撞着するやうな場合には、不合理だ、封建的だと言つて否定する。又、日本の事實をして此の標準に合致せしめんが爲に針程の事を棒程に言つたり、棒程の事を針程に言つたり、總て歪曲して解釈する。故に、彼等は日本の事實の真相を理解出来ぬと同時に、改米の真相をも理解出来ぬ。

又、彼等は西洋人のやうな様子をすることが文明人だと思ひ込み、衣食住の未だで制度的に改米人を真似るに至つた。大抵の学校や官廳は洋服でなければ出勤が出来ぬ。又、西洋的の礼装でなければ出入の出来ぬ場所もある。かゝる政治的、社会的の努力に依つて所謂『文化人』なる一つの階級が生ずるに至つた。彼等はアパート又は洋風擬むの家に住み、洋服を常用し、改米人の如き歩き振りをし乍ら勤め先に通ふ。又、種々の方法で彼等の生活や最近の流行を研究しカフェーや喫茶店に行つて西洋人の手つきで物を食べ乍らスポーツの嗜などをやる。これが世界共通の文明人正規の生活だと心得てゐる。

尚、又、近來に至り犯罪者と娼賣とが異教に激増した。役人や政治家達は如何に泥棒が跋扈しやうが、如何に娼賣が増加しやうが問題とせずして、却つて改米の統計を示し、此等の激増は日本が急激に進歩した證據であるといふやうな意味のことを言ふ。

これ等は文明に對する日本人の觀念の誤りを證據立てるものである。此の文明の何處にも個性がない。日本的の個性を凡てにはつきり反映させ、悪人も貪乏人もない社会を建設してこそ日本の文明である。これは文明の進歩でなくして退化である。此の進歩と退化とを間違へるものが文化人となり、役人となり政治家となり、教育家となり、國民を反日本的に脱線せしむべく組織活動する。

前述の如く、歐洲の國々は、永い間、同じ政府、同じ宗教に支配され、而も地理的に云へば、東洋の一半島に過ぎぬ狭い地域に國家を林立してゐるのであるから、各國民間の人種的、傳統的、思想的の相違は非常に少いのである。それですら、國家の經營に當つては、内面的に個性をばつきりさせなければ國際競争に不利を招くから、國際競争の激烈の度を加へるにつれ、主觀的色彩を益々濃厚にした。其の個性を益々發揮せしめた。況んや總ての點に於て根本的に相違してゐる日本と西洋とは、西洋の國々同志で見かける個性の相違の幾十

倍の相違があるか判らない。此の個性の相違を判然と認識し、文明の上にも、國家の制度の上にも反映させてこそ始めて日本の發展があるのである。

近來になつて盛んに唱へられる強力政治も此の原理を無視しては成り立たぬ獨逸や露西亜で能率のあがつた制度が、其の國家の個性の相違する日本で必ずしも能率があがつるといふ理がない。日本の強力政治には日本の強力政治としての個性がなければならぬ。

露西亜人は支那人と同様に暴力に魅力を感じる民族である。古來、露西亜の政治家は、此の暴力の魅力を政治上に利用して來た。殊に、ソ聯の幹部は此の魅力を巧妙に利用し得る優秀な技能を有してゐる。ケ・ベ・ウの制度といひ、強制労働の制度といひ、更にトロツキスト又は叛逆者としての肅清の方法といひ、此の暴力の魅力を巧妙に利用したものである。スターリンはヒトラーやムソリーニに比較して華かな處が少いが、此の暴力の魅力に依つて素晴しく偶像化して了つてゐる。

愚鈍な國民を以て大部分を占めてゐる露西亜の政治は、上から下に向ふ所の統制のみで、下より上に向ふ綜合がない。其の統制の方法も、空想と理論との飛躍はあるが、実際には拙劣極れるものである。其の政治は否でも應でも獨善的となり、一轉して暴力に変わる。我が机上人は彼等の理論と空想の飛躍を見

て其の實際及び内容の矛盾を見ない。下から上に向ふ綜合と、上から下に向ふ
三
統制が調和してこそ始めて政治が公正に行はれ、一身一体の共同生活も共同活
動もできる。露西亜の政治は帝政時代より理論の飛躍を認め得るが、其の内容
たる個性の方面にはさほどの変化を認め得られない。彼等の統制の強化は暴力
の強化に過ぎなかつた。帝政時代より進歩したといふのは、たゞ、針程のもの
を棒程に、棒程のものを針程に言つたりする宣傳の技術だけである。政治の個
性其物には何の変化もない。

又、智力的の獨逸人は其の智力を以て國家及び社会の諸制度を狂ひのない機
械のやうに組み立てた。彼等の活動の總てが上は總統者より下は一平民まで時
計仕掛の如く、巧妙に統制され、綜合される。獨逸程、上より下へ向ふ統制と
下より上へ向ふ綜合とが理想的に行はれてゐる國はない。殆んど全部の國家は
綜合が統制か何れかに偏する。英國や日本は綜合に偏する方が能率をあげ、露
西亜や伊太利は統制に過ぎる方が能率をあげるやうだ。たゞ、獨逸と亞米利加
とが統制に偏せず、綜合に偏せず比較的に中庸を得てゐる。が、其の内容は非
常に相違する。亞米利加の綜合統制の人情の、有機的、輿論的であるに反し、
獨逸の綜合統制は機械的、組織的、無機的である。而して、ナチス獨逸に於て
は、それが餘りに巧妙であるため、綜合より統制が目立ち、總帥者の獨裁が行

はれてゐる如く見える。これは機械仕掛の總ての道具に見られる現象である。
一般に精巧な機械程、中心に依つて統制され、中心が特に大切のやうに思はれ
るが、実際には何れの部分も大切で、部分の一寸の故障と雖も運轉が休止する
ナチス獨逸もこれと同様である。ヒトラーは、世間で考へてゐる如き主觀的の
獨裁者でなく、客觀的の機關である。獨逸が戰敗によつて悲境に顛落したに拘
らず、七千萬の國民にパンを與へ、且つ、國家を再建せねばならなかつた。此
の要求を充すためにナチスが發達し、非常な成績をあげた。其の巧妙な組織の
發達に依つて数百万に餘つた失業者が殆んど影を没して了つた。其の統制綜合
の仕組が餘りに巧妙であるため、客觀的の統帥者が主觀的の獨裁者のやうに思
はれるのである。帝政時代の政治もナチスの政治も内容は少しも変化がないが
たゞ外面に時代色が塗られ、且つ、其の組立て方が巧妙になつて來ただけで、
其の内容は依然として國家の個性を如実に發揮してゐる。

此の様に、露西亜でも獨逸でも其の國家統制の方法は、其の國特異の國家の
個性を尊重し、之に最大能率をあげさせるために發達したものである。若し、
日本に強力政治を布き充分の効果を納めんとするならば、日本的の個性を充分
に發揮させなければならぬ。國家の政治、國家の文明に個性があるならば、強
力政治にも個性を有し、獨伊露の夫れと異つた形式のものでなければならぬ。

國家の個性が相違すれば、必然に強力政治の形式も相違して来る。後で説明するが、日本の強力政治の型は、結局、頼朝や家康のなした政治の型になるのである。

強力政治と云ひ、國家統制と云ひ、結局の目的とする處は共同体としての國家の完成である。如何に手段、形式、機構が美であらうとも、其の目的たる國家が共同体として未完成であつたならば意味をなさぬ。若し、其の組織が強力なる共同体としての日本の完成を目的とするならば、外國の機構の未を模倣しても意味をなさぬ。たゞ日本の個性を尊重し、之に立脚すれば自然に能率の上る制度が創造される。日本の強力政治は國民の一身一体の共同生活、共同活動を完成せしむるものであるから、名目や形式に把はれる必要はない。名目や形式は如何であらうとも、日本の個性に立脚した制度を完成してこそ大いに國家の能率をあげる事ができる。

然るに、我が國の政治家、役人、思想家達は未だ國家社会に個性の存するに就て諒解してない。英國型の議會政治を理想としてゐた彼等が今や獨逸型の強力政治を詆歌してゐる。英佛の礼讃者は自由主義者と罵られ、獨伊の礼讃者は國家主義者として時めく。彼等は英佛的の制度の殻の中より脱却し、獨伊的の制度の中に日本を置いたならば、忽ちに自由主義的色彩は除去せられて迅

速に寫眞で見るやうな獨伊の状態へと變化すると空想する。殊に、思想の單純な役人達は、機構さへ改善したならば如何程低級な社会でも國家でも向上進歩して至高の水準面に到達し得るといふ社会主義者張りの思想に魅惑されてゐる。彼等は、議會制度の模倣、共產主義の共鳴と同様の態度にて獨伊の強力政治の引き寫しに夢中になつてゐる。此の機構主義は知的概念でなくして宗教的礼讃で、彼等の態度に殆んど科学的、理智的の点がない。彼等は知的論證の聲を頑として受けけない。併し、議會制度を布いて英米にならなかつたやうに、獨伊張りの強力政治を布いても彼等の期待する如き強力政治は出來まい。恐らく、自由主義者や共產主義者の辿つたと同様に、國民に多くの迷惑をかけて退場するといふ悲喜劇に終るのが落ちであらう。

眞に日本を統制し、強力政治を布かんとするならば、先づ、日本の個性を諒解しなければならぬ。日本の個性を會得すれば、自然に、日本を精神的並びに肉体的に簡單に動員する事ができ、又、好きな強力政治も簡單に具体化する事ができる。故に、我等は順を追つて日本人及び日本の個性を説明し、日本の強力政治と國家統制との方法に就て説明することにする。

第二章

人間の群居性と日本人の團結

群居性動物は其の本能に基き、群居を好み一致團結の統制ある生活をせんとする。

一種の群居動物たる人類も一般の群居性動物の本能に基き、無意識的に同類の結合を成立せしめる。彼等は、假令、平常に其の結合が弱くとも、外部への敵對感情に強く刺戟せられる時は、内部的の結合が強まる。此の現象は、他の國家又は社会を敵に持った場合に試験せられる處である。

人間の群居生活に於ける最小單位は家族である。

家族は肉体的にも精神的にも最も親密なる者同志にて構成せる團體であつて人間の群居生活の種々の態様を最も典型的に表示してある。眞の常態の國家又は社会は、此の家庭を單位とし、此の綜合によつて構成せられたものである。則ち、一家の拡大した如き自然的、民族的の國家又は社会に於ては、家庭は國家又は社会の小なるものであり、國家又は社会は家庭の拡大したものである。家庭も國家も社会も同一原則に支配され、飽くまでも家庭的の要素を保持する一家の自然的に發達した如き過程を有する國家又は社会に、一家の夫れの如く

平常は内部的に種々の對立があつても、いや事ある時には、自然に一致團結して當る。殊に、他の社会又は國家に敵對するやうな場合には、自然に其の團結が強硬となり、國民は一身一体となつて之に當るものである。支那や歐洲の如く幾多の民族の混合による國家又は社会は、如何に恐るべき外敵があらうとも日本の如く、自然に強硬なる一致團結ができない。

支那人や西洋人を一致團結せしめるには、大体左の三つの方法による。

一、全体の生存を脅かされてゐるといふ事實を認識せしむると

二、言論、文章等により一致團結を煽動すると

三、政治、法律、經濟、宗教、教育等により制度的に團結せしむると

で大体此の三の方法で之等の國家又は社会の團結が達せられる。

例へば、過去に容易に一致團結せず、外敵に對して一も二もなく降服してゐた支那が、今度よく團結して我が聖戰に對抗し得た原因は

一、滿洲國の獨立と日本の北支進出との事實を、疑心暗鬼的に支那人全体の生存を脅かされた如く感じ、之が全般に傳播した

二、總ゆる方法を以て一致團結して日本に當る様に所謂『抗日侮日』を煽動した

三、よく國家の統制が行はれ、各層共に蔣介石を支持した

等、前述の三條件を骨子とし、之を圓滑に実行したからで、支那としては、こんなによく統一のとれたことは前代未聞であつた。

併し、支那の此の空前の大團結程度の團結が、日本では、一大尉が北満で惨殺された一小事件によつても簡單に達せられる。此の点をヒトラもムソリーニも羨しがつてゐる。彼等は日本人の熱烈なる忠誠の念を自國民に植付けるとに努力してゐるが『天皇陛下の御爲め』と言へば總てある如く簡單に行かないと日本人に会ふ毎に嘆息を漏してゐるとのことである。

日本の如く、一家の拡大したやうな國家は、たゞの一國民が外國又は外國人から侮辱を受けても、國民全体が大なる侮辱を受けたかの如く感じ、一身一体となつて國民的の興奮を捲き起し、場合によつては戰爭にまで發展するのである。個人に對する侮辱と國家に對する侮辱とは別個なるに拘らず、日本人は、對外的に此の正別がつかず、個人に對する侮辱を國家又は全体に對する侮辱と感ずるのである。これは日本人の一体感が如何に旺盛であるかを物語つてゐるものである。従つて、日本が、常に他より一國民に掛けた危害又は損害に對し國民的の興奮を捲き起すのは、島國根性の爲めでなく、群居性の人間本能の然らしむる處である。一家の自然に拡大した如き日本では、此の本能が純粹の型にて強く現はれるのだ。従つて、支那で広大な地域を侵略され、國家の存立を

宵されて生ずる國民的興奮を、日本では至つて小事件に依つて達せられる。

此の國民的の強固なる團結は、外部から皇室は國家の發展を宵される危険を少しでも感じた時に始めて強硬となるのであるから、此の危険が少しもなく、且つ、外的に發展する野心もない、例へば、幣原外交時代のやうな際には、自然に其の團結が緩み、内部的に種々の對立が生ずる。

併し、此の種の結合や對立の遲緩は、内的分離の原因がなければ、必ずしも共同生活、共同活動の基礎を弱めるものでない。否、これがため、却つて、部分を充實せしめ、個々の機能を發揮せしむる作用を有する。例へば、家庭に於て、親密なる家族的團結を本質的に動搖せしめることなく、家族の一部を分離して別家を立てたり、子弟を遊學せしめて才能を發揮せしめたり、他郷に出稼せしめて家庭は自己の内容を充實せしめたりして家族を絶えず離家せしめてゐる。又、子弟の教育、一家の經營等の問題に對し、親子兄弟夫婦間に意見の不一致を來し、屢々論争をひき起すけれども、其の論争も親子兄弟夫婦の仲を根本的に破壊するに至らぬ間は、依然として其の團結をつゞけ家庭の繁榮を計る一家の自然的に發展した日本も此の原則に支配されてゐる。滿洲事変までは政民兩党の醜キ對立があつた。支那事変までは、軍部と政黨、既成政黨と無産黨、資本家と労働者との醜キ對立があつた。此の對立が常に感情に走つて種々

の波瀾を惹き起した。が、極く少数を除く外は、國家を根本的に破壊せんとするものがなかつた。而して、これ等の幾多の對立も、滿洲事変及び支那事変に依つて殆んど解消し、一致團結して國難に當つてゐる。共產黨員が出征して戦死する如きは、外國では珍しいことであるが、日本では何でもない。

此のやうに、此の種の對立又は分離の現象は、内的結合の本質的原因を排除せざる限り、共同体の概念と相反せぬ。部分たる細胞間の多少の不調和は、容易に全体を破壊して了ふことがない。苟しくも、國家が共同体である以上は、如何に内部の對立が激甚であらうとも、國家固有の利益を無視して外敵の利益を計つたり、國家の利益と背馳する個人的の利益を計つたりするものは、日本では素より外國と雖も餘り多くない。若し、あれば、最も憎むべき反逆者として、重き制裁を受けなければならぬ。國民は、正常に、團結して硬くなつてゐる必要もないが、適當な手段を構じ、其の對立を善處して置かなければ、非常時に際し、國家の能率をあげる事ができぬ。國民各自が適當の部署につき、行動の上にて最大能率をあげてこそ、愛國の信念を生ずることができるのである。故に、國內に於ては如何に對立があつても支障ないが、此の爲めに、非常時は素より、平時にも、國家の能率が低下せぬやうに對立を合理化させねばならない。内部の對立の合理化は、部分を充實させ、個々の機能を發揮せしめなければ

ならない。其の對立を許容するならば、それと共に、之を綜合統一する紐帶を必要とする。此の紐帶が道徳であり、風習であり、宗教、教育、政治、法律、經濟である。其の紐帶は、國家の成員教や環境の複雑さ、此例して強靱なものでなければならぬ。然らざれば、内部の對立は、其の激化によつて分裂の憂がある。又、國家の複雑化や成員教の増加につれて、主觀的の紐帶よりも法律、經濟、政治、教育等の客觀的の紐帶が強靱にならなければ多分の危険がある。則ち、日本が簡單に一致團結するからと言つて、決して油断はできぬのである。如何に一致團結するからと言つても、漫然と弥次馬的の一致團結では、いざといふ秋に、國家としての能率を充分にあげることができぬ。それで、獨逸や伊太利の如き不自然な國家の統制方法を学ぶ必要は殆んどないが、いざといふ秋に、國家としての最大能率をあげ得る方法を國民に諒解せしめて置き、且つ適宜に之の訓練を施して置けばよい。これだけで、平常に國民は國家の事を念頭に置かず、自己の職分を忠実にこなし、部分の充實と個々の個性の發揮とに努力してゐても、非常時の團結を弱めるとはならない。過去の日本は、部分を充實せしめる爲めに地方の自治制度が發達し、全体を統制する爲めに理屈抜きの忠義の思想が發達した。

之に反し、支那や西洋の如き不自然なる國家は、如何なる平和の時代と雖も

内部的の團結を弥が上にも強硬にし、遲緩を許さぬやうにしなければ、いざといふ秋に間に合はぬ。佛蘭西の如きは、外部より國家の存立を脅かされて居り政治家は國民の團結を煽動してゐるにも拘らず、國民の團結は益々遲緩して行く傾向を示してゐる。又、支那が統一して抗日し得るやうに整備したのは、滿洲が取られ、北支を狙はれて始めて目が覚め、五年も血の汗を流して如き努力をなした賜物である。何れの國家も、共同体として完成するには、國家の非常なる努力と國民の理解と全体の生存を脅かされる事実との三つがなければならぬ。日本の如く、至つて簡單に全体が一致する國民はないのである。

日本はかうして必要に際して自然によく團結して一身一体の共同活動をなし得る。何を好んで總動員法の如き悪法を制定するのであらうか。他の國民は日本人のやうな理には行かないので、平常より種々の技術を以て團結せしめて置き、戦時は戦時で總動員法の如き法律を必要とする。

而して、政治其の他に人間を團結せしむるには、人間團結の原理を會得して置かなければ其の効果をあげる事ができぬ。

大体、人間の一致團結の原理は次の二法則に歸着するやうだ。

一、國民の團結心は、國家と國民との融合の程度が緊密にして、常に國民が大衆的の見地より個人の人格を國家の中に没入せしめ、全体の一分子となつ

て活躍する程強固となる。従つて、自我の強き民族や打算に長じた民族に依つて構成せられたる國家は、此の自我と打算の善導と除去とに努力せねばならぬ。

二、國民の團結心は、其の成員數又は地域の広さに逆比例して強く、國家の危機に頻し共同生活を宵かされるか、外國との生存競争に打ち勝ち、自己を發展せしめんとする程密である。従つて、國民の團結心は、同一刺戟に對する同一教の國民の反應の強弱に依つて測定することが出来る。此の意味に於て、支那や露西亜の對日的強化も怖るゝに足らぬ。彼等は日本に宵え勝手に國家の存立の危機に頻してゐるが如く考へてゐるからである。

何れの國家も、國家を組織してゐる以上は、其の存續を希望し、外國との生存競争に打ち勝たんとせば、如何なる手段、技術を弄しても統制を完成せねばならぬ。これが國家の制度組織の發達又は複雑化の原因である。國家の制度の複雑夫れ自体は何の價値もないのであるが、之に依つて、最も適切に、國家の內的分離及び其の諸原因を克服し得て始めて價値を生ずる。日本の諸制度や法律の大部分の如く、國民に面倒な思ひをさせ、且つ、其の內的分離を企圖する如きものは、如何に夫れが尠大であつても、又、一寸目には如何に精巧であつても一文の價値もない。某國の機關銃は、機械が餘り複雑であるため、直ぐに

故障が生じ、且つ、修理も面倒であるから實戰に適せぬ武器であるといふことである。實戰に適する武器は、効力が絶大で、取扱ひも簡單なものでなければならぬ。武器に限らず、一切の事物は、效用に比し仕掛が簡單になる程進歩發達となるのである。國家の制度、法律が複雑へと發達せねばならぬのは、其の國家が共同体として如何に不自然であるかを物語つてゐるのである。若し、日本が『天皇陛下の御爲めならば……』で一切が解決するならば、一切を之に任せて可及的に餘計なものを拵へぬ方が國家も國民も大助りである。

國家の組織、制度、法律等を發達せしむる原因は大體次のやうなものである。

一、幾多の民族が入り交り、人種的、地理的、歴史的に分裂し、國民が相互に一體感を持たぬ。

彼等に一體感を持たせるには、政治、教育、宗教、法律其の他の手段を俟たなければならぬ。

二、國民に自我が強く、打算に長じ、國家への奉仕を肯せぬ。

彼等を馳つて國家に奉仕せしむるには、種々の制度、組織、手段が發達しなければならぬ。

三、國民の團結力は成員數に逆比例し、國土の広さに逆比例するから、其の成員數の増加につれ、領土の拡大につれ、全体としての團結力を弱めるから、人

爲目的の制度組織を以て之を補はなければならぬ。

三六

四國家が外敵を有し、尋常の手段で之に打ち勝つ見込のない場合に、自然と國家の最大能力を發揮するために制度、組織が發達する。

大体に以上の如き四つの條項が中心となり、國家の制度組織を複雑ならしめるのである。殊に、近代國家は、旧時代に比し概して人口と領土とが増大したから、それだけ國家の制度、組織は複雑に、且つ、強力にならねばならぬ。それに、交通機關の發達は國境の不安を増大せしめ、武器の發達は國家の武装を強化し、自他共に存立に脅え、益々國家の制度、組織の複雑化と強力化との必要に迫られた斯くして、近代國家に於ては、國民を基礎とした共同体を制度、組織に依つて成就せんとする企てが相當に成功してきたのである。併し、人間は物質的でなく精神的であるから、制度組織の發達だけでは一身一体の共同体として却々完成せぬ。彼等が複雑なる制度組織の發達を俟つても尚ほ且つできぬ事柄が日本では至つて簡單にできるのである。日本は全体の國民が一家族の如く一身一体の共同生活、共同活動をしてゐる。外部から此少の刺戟を受けても直ちに強烈なる反應を呈する。支那が北半分を失つて生ずる敵愾心を、日本では何の組織も煽動もなくして此少の事件で得られる。容易に國民的の一致をせぬ歐洲の國家や支那に發達した種々の文明や形式は、日本に於て何の要もなきぬものが多い。蚯蚓に複雑な

な機關が發達した處が何の意味もなきぬ。却つて此のために生存を妨げられたり不便を感じたりする場合が多いかも知れぬ。これと同様に、日本の實際を見ず、日本の個性を諒解せずして徒らに機構の末に走り、制度いぢりをして意味をなさぬ。一家の拡大した如き日本は、其の個性を諒解し、聰明なる手段を以て處理するならば、過去に於けると同様に、至つて簡單に一身一体の共同体を完成せしむることが出来る。

第三章

我等の協同性と特異の忠義思想

國民が精神的に團結し、一身一体の共同生活、共同活動をなすに當り、年齢、健康、智能等の個人的相違、優劣は、自ら指導、被指導の關係を生ずるに至る。

乃ち、愛する人々の間には、其の愛に比例して必然に「指導」と「服従」とが伴ふ。而して、大体に於て、愛が深ければ、上層の下層に對する指導が眞剣となり、又、下層の上層に對する服従も誠實となる。茲に於て、相互に犧牲的精神が高調に達し、喜怒哀樂は素より、生死相託するに至る。指導者は被指導者を強く愛し、我が子の如く思ひ、血肉を割いても之を幸福にせんとする。又、被指導者も指導者の人格を讚美し、其の行動を美化して之を追従する。生存中には之に絶對服し、死後は神佛として崇敬したりする。彼等が上下一体となつて円満なる團體生活をなすならば、下層は上層の希望又は暗示に對しても、恰も電氣にでも打たれる如く、直ちに之に服従し、敏捷に實現を期する。

此の指導と被指導との關係は階級制度を馴致する。長幼序あり、夫婦別あり、等の言葉は此の消息を物語つてゐるものである。但し、歐洲の如き民族的の服従被服従の關係に起因する階級制度と異り、斯くして生じた階級制度は、指導と服

從との合理化である。たゞ、これが國民の共同生活をする上に於て便宜のために發生したもので、形式は兎に角として、内容は無階級である。支那や西洋の如き民族の征服、被征服の關係にて成立した階級制度は、階級的に根本より分裂してゐることを表示せるもので、假令、表面は平民主義であつても、實際問題となれば嚴重なる自他の區別を立てたり、又、階級を内容とする制度法律を布いたり、更に又、理論や形式の上にも通称「順序」と稱する階級を設け、嚴重なる區別を立て、平民達を困却せしめたりする。

然るに、一家の拡大したる如き民族的の日本は、嚴重なる階級制度が存在したと雖も、夫れは只形式のみにて、其の内容は無階級の相互扶助的であつた。彼等は相互に自己の天命境遇の命する處に従ひ、國家の一分子として活動してゐたに過ぎなかつた。其の階級制度は一身一体の共同生活、共同活動する上に於て、各々其の適材適所につき、指導、被指導を圓滿ならしむるために便宜上生じたものであつた。年齢の差に依り、経験の多少に依り、健康や智能の相違に依り、敏鈍にて生ずる仕事の量に依り、自己の社会上の地位を自ら認識して適材適所に就き、其の階級を自ら遵守することに依つて共同生活も共同活動も能率をあげる事ができる。彼等が階級によつて職分的に相違を來しても、國家に對する精神は上下の區別なく眞剣である。日本の軍隊が強いのは、一兵卒と雖も元帥大將と同等に

陛下の股肱と信念してゐるからである。外國では一般に忠誠の念は階級や俸給に比例して發展し、一兵卒と元帥大將と同等に置くことができない。日本人の中に階級が發達したからと言つて其の爲に内的結合を弱めるやうなことはない。却つて、之に依り、内部を整頓し、順序を立て、内的結合を強硬ならしめ、全体の能率をあげる。従つて、日本人は上層者と同様に下層者を信頼する事ができる。外國では將校や官吏は信頼するに足りるが、平民は信頼するに足りぬとするのが其の常識になつてゐる。が、日本では官吏其他の上層者が信頼出來ぬ事はスパイに關する外務省よりの警告によつても判る。外國では上層階級が容易に機密を漏さぬから、スパイは平民を對手に機密を探る。日本では上層階級が容易に機密を漏すから、スパイは彼等を直接の對手として機密を探る。これが對日本のスパイ戰術の特異の手である。當局は、最近に至り、此の特異の戰術に気がついたが、防諜陣は依然として外國直訳のもので此の事實に立脚してない。外國でのスパイは平民を對称とするから、防諜陣の主勢力は平民の行動の警戒に注ぐのであるが、日本での防諜は官吏其他の上層階級の警戒に其の主勢力を注がなければならぬ。官吏の不仕轉なとは日本が世界第一である。

此のやうに、自然的の國家での階級は、自己保存上の便宜のために發達したものである。故に、其の能力に依り、經驗に依り、表面は嚴格なる階級制度が成立

した場合と雖も、主觀的には階級制度を醗酵せず、又、階級的反感も起らず、全体に亘つて益、内的結合が強靱となる。國家は平民達を大臣大將と同等に信頼し、平民達も國家を大臣大將と同程度に愛する。

而して、國家が表面的にもせよ、階級的に分裂してゐる以上は、自ら怠なきの區別が生ずる。人間も一般の生物と同様に、其の團體生活に於て、急所の擁護が全体の擁護となる場合が多い。人間社会にて、適材適所に就き、偉大なる統帥者を推戴し、之の指導に依つて見違へるやうに發展したり、又、其の任に堪へざる者を最高指導者としたため、繁栄してゐた社会が見違へるやうに衰微した例が多いのである。國家に於ても偉大なる人物が指導者となり、適材適所につき、指導者の為す所に同違がないといふ保障を與へられた制度が成立したならば、國民は指導者を信頼し、其の指導に服従し、且つ、其の指導者を國家の急所として擁護するに至る。指導者が實際的に國家の急所となるに至れば、一般の生物と同様に個人の捧ゆる犠牲が、形式的には指導者階級に捧ゆるかのやうに見える場合があつても、實際には國家又は全体に向つて捧げられてゐるものである。急所の滅亡は全体の死滅を意味する場合が多いからである。而して、此の本能は、遂に國民を驅つて國家の元首を國家其物なりとし、元首に捧ゆる忠誠を國家に捧ゆる忠誠なりと信ずるに至つた。日本人の皇室に對する如きは其の最もよき例である。

日本人の皇室に對する忠義の道徳は、蟻、蜂の昆虫類を始めとし、人類に至るまでの總ての群居性動物が、其の集團生活に最大能率をあげるために備へた『指導』と『服従』との本能を合理化したものである。故に、一種の群居性動物たる人類に於ける『忠君』は人間の生理的、心理的の要求を充たんとする人間本能である。従つて、忠義の道徳が國家の制度及び道徳の根本をなしてない國家があるならば、夫れが、假令、世界中の國家の殆んど全部を占めてゐようと、此等の國々は變態的の國家である。

併し、如何に常態の國家と雖も、指導者たる能力を缺けるものが指導者の地位に就き、更に權力を振ひなどし、其の階級を不合理に、且つ、拙劣に悪用すれば全体の外的結合を弱め、國家社会の能率を低下せしめる。氏族的國家たる日本が今更に、國民精神總動員を高調しなければならぬ如きは太いに反省せねばならぬ處である。而して、此の『指導』と『服従』との本能をよく理解すれば、日本では面倒な制度も組織も且つ又宣傳の必要もない。日本では至つて簡単に國民を精神的に團結せしむることが出来る。

一家の自然的に發達した日本は、此の自然的の指導と服従とが、何れの巧妙な國家の組織に依るよりも、自然に、且つ、巧妙に行はれる。たゞ、上層の希望又は暗示が下層に強く響き、感激を以て之に順服する。日本に於ける上層の希望又は

暗示は、歐洲や支那に於ける支配的勢力以上の実行力を有する。歐洲や支那の過去の支配階級は、獨善的の手前勝手なものを、刑罰を以て服従を國民に強要したのである。現代に於ても、多くの法規や刑罰を以て支配力を確立せしめなければ國民を服従せしめて共に活動せしむることができぬ。然るに、日本では上層の希望と暗示とだけで、古來、充分に國民を服従せしむることができた。其の特徴は、御歴代の『勅語』に依つて最もよく顕れてゐる。

此の勅語の殆んど全部は、陛下の國民に對する御希望的御指導であつた。又、社会教育家の口にする如き教訓に類するものであつた。現代の法律や政治の中に含まれてゐる如き、背後の權力を暗示し、權力の暴力に依つて國民を支配せんとするが如き点は、恐水乍ら、一つもなかつた。それにも不拘絶大の効果を収めてゐた。数千万の人口を有する當時の日本は、陛下の御希望を述べらるるたる勅語が唯一の法律的存在であつた。原始時代の法律は何れ簡單なものであつたが、日本の如き立派な文明を有し、且つ、数千万の人口を有する國家が君主の御希望を述べたる『勅語』に依つて統制がとれ、其の御希望に服従した如きは一大驚異である。然るに、これを野蠻だとなして唐制を模倣し、六法制的の官僚國家を拵へたのであつた。其の結果は歴史が充分に證明してゐる如く、政治を不仕轉にし、民を餓えしめ、群盜を拔扈せしめたり、よい事は一つもなかつた。日本が勅語政治に

成績が上り、六法制的の官僚政治に効果が薄かつたのは、日本人の素質より來れる當然の結果である。

日本人の順服は、たゞ、勅語だけに對して行はれるのではない。諸王、貴族の御希望又は希望に對しても、國民は相當順服の実を示した。其の代表的なものは以仁王の御令旨である。

當時は親王を別として諸王の御地位は概して低かつた。以仁王の御地位も高くなかつた。此の以仁王の平家討伐の御令旨を受け取つた諸國の源氏の武士は何れも先を争つて奮起し、一氣に之を滅せしめた。日本では神代以來、大事をなすに當つて、天皇又は皇族を奉戴せおして成功した例はないのである。これは最上に對する順服の精神の表れである。

日本の上層に對する順服心は、國内が整調し、社会が平和である程、旺盛となる。又、日本の精華たる武士道の旺人な時代程、上層に對する服従心も旺人であつた。最も武張つた鎌倉時代、織豊時代、徳川初期等の却々人の云ふを聞きさうもなかつた人が多かつた時代程、現代人の常識と反對に、上長の命令、希望に盲目的に服従する傾向が旺人であつた。賴朝でも家康でも決して壓制者でなかつた。円満にして、且つ、謙讓の徳を備へた人格者であつた。併し、其の部下達は自己の順服心を満足すすために、希望以上の出過ぎた行動をとり、其の意志に反

して獨裁者たらしめたのであつた。殊に、家康に豊臣家を滅亡せしめた如きは、部下の出過ぎた順服心の現れに外ならぬ。家康は、常に強硬派の部下に引きづられ、遂に豊臣氏を滅亡したのである。

又、加藤清正、福島正則等に就て後世人は種々の批評を下してゐるが、彼等は意識的に家門や生命を惜しんで忘恩的の行動を採つたのではなかつた。彼等は上長の命令、希望に無條件で順服するといふ日本人の本能の發揮があつた結果を導いたのであつた。此の心的傾向は此の二人だけではなかつた。家門も生命も惜しまなかつた當時の大名、武士達が上長の希望や指導には勿論、其の趣味にさへ追従したのであつた。上層が茶道を好めば茶道にこり、上層が能樂を好めば能樂にこつた。これは何れも日本人の上層に對する順服心の顕れである。

而して、日本人の素質が変らぬ以上は、現代人にも此の心的傾向が形式をかへて旺人に現れてゐる。大人物には必ず幾人か水火の中をも辞せぬといふ盲目的の服従をなす後輩又は門下生を有する。又、ゴルフといひ、ダンスといひ、パーマネット・ウエイウといひ、其の流行は、道德的、社会的に支持を有する上層者の趣味への追従に外ならぬ。選挙違反の取締の如きも、下級官吏が上長の命令に迎合し過ぎ、拷問までして罪人を拵へるのが部下の本分かのやうに心得るに至る。戦争其他の先陣争ひも此の順服の本能の現れに過ぎない。又、非常時の色濃く

なり、武張つて来る程、武家時代的色彩が強くなり、議論を抜きにして中心者の意見や趣味に盲従する。

此の日本人の順服の本能は、國民の皇室や國家に對する場合には実に理想的の形にて顕れ、國家の能率をあげるのであるが、其の他の場合には利益より害の方が多いためである。例へば、官僚である。彼等は必ずしも道德的でない上司に迎合するため、常に國民を犠牲にし、其の底部では完全に國民と相馳背し、恰も官僚のために國民も國家も存在してゐるかの如き觀を呈してゐる。爲政者はかゝる事實を認識して此の本能が害を齎さないやうに充分の處置を講じなければならぬ。殊に、官廳制度の改革に於て此の点を忘れてはならぬ。

而して、此の日本人の順服の本能が『節操』及び『忠義』なる日本特異の内容を有する道德を生んだのである。

日本人は抽象的の議論では、客觀的の合理の基礎の上に立つて進退せねばならぬと言ふのであるが、實際問題となつては、親分と出處進退を共にし、親分の行動に盲従して行かねばならぬ。然らば此は無節操の汚名を著し、中には社会的に葬られるものもある。政党人其他がよく無節操の汚名を著せられるが、其の大部分はかうした意味の無節操である。此の傾向は日本精神が旺人であつた時代程甚だしかつた。

此の現象は外國人又は外國の道德のみを眞理と心得てゐる人々には牙旨に充ちた厭ふべき道德であるかも知れぬが、日本人に取つては之が正しい道德である。又、假令、之が不合理であつても、日本民族の個性であるから、我等は之を道德化し、合理化し、其の個性を善導して發展に努力しなければならぬ。

而して、此の節操の道德を合理化し、理智化したものが我が『忠義』の思想である。日本の忠義は節操を合理化し、理智化したもので、西洋や支那の『忠義』と本質的に相違する。従つて、支那の忠義思想が正しいと盲信してゐた光圀や頼山陽を始めとする我が儒者達の忠義とも本質的に相違する。

則ち、日本の如き順服心の旺盛なる社会では、全体に向つて捧げる犠牲を其の社会なり國家なりの至高者に捧げる形式を採らなければ充分に能率をあげる事ができぬ。

國家に捧げる犠牲を至高者に捧げる形式を採る以上は、至高者も國家と同一の内容を備へたる道德的、精神的のものでなければならぬ。然らざれば、其の捧げる犠牲が不合理となり、全体が不道德團體となる。それで、至高者を干渉して道德化し、神聖化し、全体の理想と同一の内容を備へるやうに國民も努力し、至高者も努力しなければならぬ。此の点が節操と忠義と相違する處である。節操は自己の支配者が道德的たると不道德的たるとを問はず、之に犠牲を捧げ、之に服従

するのである。忠義も支配者に對して犠牲を捧げる。これは絶対條件であるが、それと共に支配者を道德化し、神聖化する責任を有する。節操は小乘的であるに對し忠義は大乘的である。至高者が正しく、全体と同一の内容を備へるに至つて始めて全体も正しく、其の捧げる犠牲も合理となる。至高者が道德化し、神聖化するとは、全体が道德化し、神聖化するのである。至高者と全体とは、其の内容が同一である。至高者に捧げる犠牲は、至高者に捧げる犠牲であると共に全体に捧げる犠牲であり、又、全体に捧げる犠牲は、全体に捧げるものであると共に至高者に捧げる犠牲である。これが我が國の皇室、國家、忠義の特異の事情である。

則ち、國民が國家のために奮闘し、忠義をつくしてゐるものが、實際には國民全体のために犠牲を拂つてゐるようになる。又、國民全体のために奮闘し、犠牲を捧げてゐるものが、皇室に對して忠義をつくしてゐるようになる。日本では實際に於て君民一如である。機關説に依れば、天皇は國家の一機關であるが、實際に於ては天皇は國家の全体であり、國家を代表するものである。之は宗教的の信念でなく生物学的、心理学的に深い根據を有する。

而して、我が皇室が日本の總てを包含するならば、皇室を道德化し、神聖化すると共に、皇室に對する忠義の道德も、日本道德は素り、宇宙の眞理を包含するものでなければならぬ。日本の忠義は、支那や西洋の忠義の如く範圍の狭い。意

義の淺いものであつてはならぬ。日本の皇室は日本の國家より廣き意義を有し、日本の忠義は愛國より深き意義を有する。『日の丸』よりは御紋章の『菊花』の方に頭を下け有難がる。外國又は機關説では忠君は不合理であり、情緒であるかも知れぬが、日本では合理であり、愛國以上のものであり、且つ、日本の道德及び日本的の諸制度の根本をなしてゐる。

然るに、支那や西洋の忠義は之と反對である。

彼等の國民が國家の元首に捧けた犠牲は飽くまで元首に捧けた犠牲で、全体に何の利益もない場合が多い。又、全体に捧げた犠牲でも全体を益せず、たゞ上層階級だけを益する場合が多い。忠君と愛國とが心おしも両立せぬ。元首は國民の自己に對する忠誠を要求するが、國民相互の愛を要求せぬ。其の國家は私權に依る國王の私財で、國家としての共同体でなかつた。

併し、時代の進行につれ、國民の個人生活も、社会生活も複雑となつた。國民が連繫して共同の利益の上に國家たる共同体を建設しなければ、全体の生活も個人の生存も益々脅かされるやうになつた。茲に於て近代國家が発生したのである。近代國家に於ては、個人が自己を國家に依託し、其の生活を保證させる。國家が強大であればある程、國民の生活を如実に保證し、個人に與へる利益が大であるから、國民は之を支持して國家を強大たらしめんとする。國家と國民とは持ち

つ持たれつ、相互に利益を交換するに依つて、國家の維持も出來、個人の生活も保證される。而して、國家が個人に多くの利益を提供すればする程、國民も國家を支持する程益々烈しくなる。則ち、國家が國民に多くの利益を提供する程國民の愛國心が強くなり、國家の支持が熾烈となり、又、國家に對し利益を要求する程が多くなればなる程、國家の完成に努力する。かうした國民の愛國的傾向は國民の物質生活の複雑化に比例して強くなる。又、同じ國民の中でも、國家の利益をより多く蒙る上層階級や官吏が、下層階級に比して愛國心が旺盛となる。上層は帝國主義、軍國主義であつても、下層は反國家的運動に没頭したりする。併し、大体に於て、時代の進行につれ、上下共に彼等の愛國心は旺盛となつて來た。個人は國家を離れて生存する程益々困難となり、國家に依屬する程益々強くなつて來た。此の爲め、國民は益々内部の結束を固め、組織を鞏固にし、以て、中央集權的國家が發達する。これが、外に對しては國家の武裝化となり、國民の軍人化となり、鬭争的体制をとる。國家が武裝化するに至らば、必然に、個人に對し、國家への奉仕と指導者への順服とを要求する。此の要求に應じない個人は必ず處罰される。又、國民も進んで國家の利益のため、自己の利益のため、國家に奉仕し、指導者に順服する。これがファッショである。此のファッショと我が忠義思想、我が國家思想とは、内容は非常に相違するが形式では非常に共

通点を有する。

学者に依れば、フアッシヨ國家はテモクラシイ國家になりきれぬ中間的國家であると言つてゐるが、テモクラシイ國家こそフアッシヨ國家になりきれぬ中間的存在である。國家が其の能率を發揮するには中央集權的にならなければならぬ。更に其の能率を發揮せんとするには武装しなければならぬ。中世の專制國家からテモクラシイ國家へ、テモクラシイ國家からフアッシヨ國家への發達は歐洲の國家としては當然辿らなければならぬ道筋である。

併し、彼等の國家觀念の發達も、元を洗へば、外敵の不安に依る團結で、群居性動物に有する一種の心理的發展であり、又、一種の商取引である。其の團結に強制が伴ひ、且つ、商行為に類するだけ、國民の忠誠にも虚偽があり虚善がある。獨逸でも伊太利でも見かけや宣傳の通りであると思へば大間違である。そこで、ヒトラーやムソリーニが日本を羨しがる理である。

則ち、支那や西洋の忠義はフアッシヨ時代に至つても依然として商人の商業道徳と同様に、一種の取引行為を道德化し、制度化したものである。彼等が國家から莫大の利益を受けるから、それだけ奉仕するのであり、又、莫大な利益を得るがために國家を支持して強力なるものたらしめんとする。ヒトラーやムソリーニの如く、實際に多くの利益を國民に與ふれば、それだけ國民の支持がある理であ

る。が、一朝蹉跌でもしやうものなら、國民は直ちに取引を停止して一顧もしない。國家が滅亡してもさほど憂へない。之は支那や西洋の歴史にて證明された事實であり、又、世界大戦後に至つて三四の國家の滅亡によつて見せつけられた事實である。又、國家との取引額の多い上層階級が下層階級よりも忠義の精神が旺人なとも、國家との交渉が緊密である現代人が古代人より忠誠であるのも、人間心理上當然のものである。

之に反し、日本の忠義は、前述の如く、一種の群居性動物たる人間の本能である。其の忠義の思想には、支那や西洋に於ける如き、取引行為に類する不純の点がない。忠義の思想の中に商行為に類する点がなく、人間本能の發露に依るものであるならば、忠義の強弱は階級や職業に依らない。たゞ日本人の純粹性を有するや否やに依つて、愛國者であつたり、賣國奴であつたりする。外國人は我が下層階級の忠誠を驚異すると共に、官吏や上層階級の不仕舞にも驚異する。

此のやうに、彼我の國家觀念も忠義の思想も根本的に相違する。日本の方は總てが純粹である。表面は同一であつても内容は異なる。始めより純白であるものと七色を混合して白となつたものゝ違ひである。昔し、物質を白色たらしむるのが目的であるならば、始めより白色であるものには手を下さなくともよい。一度何色かに染め、改めて白色にせんとするが如きは愚の骨頂である。日本の政治家達

は、西洋の文物と調子を合せるため、常に之に類する愚を繰返してゐる。日本のものは飽くまで純粹を保持した方が能率があがる。ヒトラーもムソリーニも此の日本の純粹の姿に到達せんために種々の努力をなしてゐる。日本の為政者が政治の眞髓をよく諒解したならば、外國を模倣して之に政治的にも經濟的にも勢力を消耗する如き愚なことをなさず、日本特異の皇室に對する忠義の思想を制度化し、組織化することに努力するであらう。

田

第四章

國家の精神的統制と財産制度

人間が精神的團結をすれば必然に共產主義を實際化する。
愛の深まりゆく處には、自ら惜しみなく與へたり、利用せしめたりする心情が自然に發生する。平和なる家庭では、富は共有的の性質を帯び、誰でも平等に利用できる。且つ、各成員の人格の完成及び生活に必要な經濟的條件は、相互に血肉を割いても充當せんとする。一家の拡大した如き平和なる氏族的國家では、形式的には兎に角として、實際には平和な家庭の場合と同様に、財産の共有は自然に制約せられる。國民は、家庭に於ける家族の場合と同様に、強き連帶の下に全体の一分子として活躍し、一身一家を捧げる。

財産の共有は、共同社会の一大特色である。人々が相互に愛着なくして富の共有を共同するとは不可能である。互に警戒し合ふ人々の間には、富の共同は勿論生産的の労働を共同するをすら不可能である。

又、眞の共同が成立するならば、家庭に於けると同様に、一部の奢侈や贅沢は許されない。人情の豊富な人は、知人の前で、決して自分だけで物を食べない。物を食べれば必ず分けて共に食べる。又、珍しい物が手に入れば、近親者に之を

四五

分與する。

四六

此の富の共有に依つて、人間の群居生活は充実する。共有主義の強化は共同体としての國家を充実せしめることになり、又、國家を軍事的に強化することになる。則ち、一人當の富が同一なれば、共同体の成員に比例して個人の物質的自由も増減するものである。

例へば、一人暮しだからといって、一ヶ月二十円の収入では暮しやうもないが、同じく一人當り二十円でも、五人家族で百円の収入があれば、衣食住にだけは不自由せぬ生活が出来る。十人家族で二百円の収入があれば、尚生活が楽になり、家族に對する保護がより徹底する。

何れも一人當り二十円の収入であるに拘らず、家族に對する保護力は其の成員數に比例して増減する。故に、一人當り同一の収入ならば、大家族主義は老幼に充分の休養を與へ得るに反し、小家族主義では老幼にも働かせるか、厄介者扱ひにするかせねばならぬ。小家族主義では働けぬ老人を養ふ能力がない。産兒制限をして沢山子供を拵へぬやうにしなければならぬ。友達とも交際できず、遠來の珍客をもお茶一杯で追ひ返さねばならぬ。老人にして働けなくなれば養老院にやらなければならぬ。子供も老人も職業紹介所に押しかけ、何かの職を得なければならぬ。これに反し、大家族主義では一人當りの収入が同一以下であつても、老

幼に對して充分の休養を與へることができぬのみならず、気の毒な他人をさへも引き取つて世話するともできない。貧農家の老人が日當りのよい所で孫を相手に遊んでゐる和やかな光景は小家族主義の都市では見られぬ。子供は兎に角として老人には田舎が天國である。それでは田舎の方が大家族主義で老人を物質的にも精神的にも尊敬し得る餘裕があるからである。又、支那で老人を大切にすることができぬのも大家族主義の賜物に外ならぬ。

此の家族に於ける原理を國家の制度に反映させて一種の大家族主義の制度を布いたならば、若くて隱居もでき、不幸な人も不安なく生活ができ、病弱者に充分の養生をさせることもでき、又、戦争の場合に壯者が出征しても、遺家族の生活の保障をすることも出来る。

則ち、國家に存する富は、家庭に於ける富と同様に、何人と雖も之を平等に利用する權利を與へ、不幸な人々を扶養する資に缺亡せぬやうにした。大家族主義の下にて相互扶助が徹底すれば、社会の成員が多い程、全体の地位が向上し、何人と雖も眞の必要に對しては何物をも利用することが出来る。

併し、此の富の共有にも一利一害がある。

則ち、此の共有のため無責任となる傾向が生じ、一方に富の消費に無頓着となるに反し、他方之の獲得と蓄積とに對する活動が充分とならず、常に消費が生産

四七

を超過する。此の現象は既に家庭經濟に見受けられる。

子女達は家庭の家計状態を考慮せず、器物其の他を粗末にする。徒らに何でも買ひたがる。遊学させれば、病氣と言つたり、書籍を買ふと言つたりしてカフエー通ひの資にする。内助して一家を繁栄せしむべき責任を有する妻女さへも、此の傾向を有し、餘程引き締らぬ限りは収入と消費との均衡をとることができぬ。多くの家庭では家族の要求の三分の一を充しても破綻する。況んや、家族よりも團結の弱い社会に於ては、全体の財産の共有は、常に消費が生産を超過する。若し消費と生産との均衡を得んとせば、より多くの生産を強制すると共に、より少き消費を強要しなければならぬ。又、國家が共産制度を布くとすれば、生産と消費との均衡を得るため、節約を強制し過ぎる程、強制すると共に、生産的勤勞を強制し過ぎる程強制し、國民をして牢獄の中の如き生活に追ひ落さなければ生産と消費との均衡を得ることができぬ。國民を牢獄の中に落しては政治はない。露西亞共産制度を実行した代りに、國民を牢獄の生活の中へと追ひ込んだ。人生の一面のみを見て理想に走れば、多くはこれに類する結果となる。

則ち、自然のまゝにて富を共有したならば、消費が生産を超過し、生産と消費とが均衡とれぬ。若し生産と消費との均衡をとらんとせば國民を牢獄生活へと追ひ込まなければならぬ。人間が共同生活をする上に於て、富の共有が是非共に必要であるが、斯く、一方が立てば他方が立たない。此の双方の缺陷を回避して、富の共有の実をあげる工夫をしなければならぬ。それが所有慾の本能の利用である。

所有慾は富を蓄積せしめ、浪費を防ぎ、節約の徳を養はしめ、且つ、此等の諸徳に對する個性の活動を自由ならしめる。若し、此の所有慾の本能を有効に活動せしめたならば、何の強要もなく、自然に物質の獲得や蓄積に對する個性の活動が活潑となり、其の消費が減少し、自然に生産と消費との均衡がとれるやうになる。

それで、所有權を認めず、何でも彼でも共産とする社会は浪費が行はれ、之の獲得保存の活動が鈍り、全体が貧乏する。それかと云つて、根本より所有權を認め、各自の富は如何なる方面に使用してもよいことを許容したならば、國家の共同体は根本より破壊される。

茲に於て、國家が共同体として眞に能率をあげるには、所有權を認めず、實質には共産といふ両面を確實に備へたる制度を創造しなければならぬ。然るに、我が國は之の巧妙なる制度を創造してゐたのであった。但し、此の制度は日本の如き一家の自然的に發展した國家でなければ有効に役立たぬ。

則ち、國家は國民に文膽なる所有權を認めて富の自由なる獲得と蓄積とを許容

した。其の代りに、消費及び利用方面に制限を加へ、且つ、之の消費、利用を道徳的になさねばならぬ絶対義務を課した。若し、之を犯せば刑に處したり、財産を没收したりした。富者は消費すべき多くの富を有し乍ら、法律に依り、道徳に依り、自分自身のためにも来分に消費せよなかつたので勢ひ貧乏人と大差なき生活をした。

而して、これは、たゞ、平民階級だけでなく、國民全体を法規的にも道徳的にも支配し、何人と雖も遵守せねばならなかつた。則ち、人口多く、物資に乏しつゝた。相互に儉約して餘剰を拵へ他に廻す義務があつた。天下の執權職と雖も障子の切張りをし、味噌を有に酒を飲んだ。如何なる地位のものも雖も奢侈をすれば人望を失つて没落した。現代人の如く、金のあるのに任せて酒色に耽つたり、大なる邸宅や別荘を建てたりするとは許されなかつた。大小名は素より、天皇も將軍も宣廳の一隅を以て御所又は居所に當てた。特別の事情あり、別荘を必要とせば、普通出家して僧庵を結び、精神潔齋の質素な生活をした。皇室に於せられとも同様、田舎に御所を必要とされ給はゞ御落飾の上、寺院に入らせられ、そこで御質素なる御生活をされ給うたのであつた。

平和なる家庭に於ては、主人一人だけ奢侈するといふことなく、一錢の消費をも妻子に憚る如く、一家の自然に發展した平和な日本は一大家庭となり、畏れ多くも上御一人を始めとし、上層に位する貴族達は、下々を憚つて質素な生活をされ給うたのである。昔の日本の貴族の別荘や墳墓ほど他國のそれと比して質素なものはない。これは、當時の社会状態や彼等の心得を指示してあるもので、これに依つて如何に權力者が國民を基礎とした道徳に追従してゐたかが判る。

當時の富者や權力者は自分自身の贅沢は出来なかつたが、常に富力相當に大衆の面倒を見る義務を課せられてゐた。自分の店子や小作人、或は支配下の人達が不運の境遇に陥れば親身になつて面倒を見なければならなかつた。慈善すべき財産があり乍ら、それ相應の慈善をしなければ犯罪になつたのみならず、其の財産を没收された。富は貧乏人に利用せしむるための富であつて、彼はたゞ富者といふ情緒だけを味はされた財産の管理者に過ぎなかつた。社会は其の才能又は先祖の努力を尊重し、又、彼自身に對する價值感を満足せしむるために富の形式的所有を許した。其の代りに、黄金力と理財の才とを以て民衆のために物資の集散をなさせたり、消費組合や銀行のやうなものをさせたり、又、慈善事業や寺小屋のやうなをもやらせた。

此のやうに、個人の天分を尊重して社会のために富の蓄積をさせたのであるが原則として、権取や不道徳に依る富者の存在を許さなかつた。日本古來の財産制

度は、形式的には大膽な財産の所有を許容してゐたが、内面的には之を許さなかつた。人間の利己心と利他心とを有効に利用し、個人的にも社会的にも共同体としての能率をあげしめた。此の形式は我等のみならず、一般の群居動物に行はれてゐるものである。蜂、蟻等に於ても一種の利己心に類する本能で多くの物質を獲得し、之を共有物として共同で蓄積するが、其の消耗は殆んど平等で、途中、食糧が缺乏しても醜き食物の争奪はせず、有るだけのものを順次に公平に食べて行き諸共に餓死する。一種の群居動物としての人間の自然的に發展した日本人に此の性情を濃厚に有し、且つ、社会的にも此の性情を必要とした。

凡そ、富は如何に公平に之を分配しても、能力、素質の如何に依り、富は間もなく偏在して貧富の懸隔を生ずる。如何に貧富の懸隔が生しても、相互扶助の精神が旺んで之を気の毒な人達に利用せしむるやうであつたならば、富の偏在も收入の多寡も問題でない。が、若し、彼等が相互扶助の精神に乏しかつたならば、多く富み、多く収入するものは奢侈の生活をし、貧乏人や少収入のものは窮乏すれど救はれざる不公平な社会となる。富の均一的分配や収入の齊一を企図するよりも、立派なる所有権を認める代りに、正當なる理由の下には、何人の富をも何人へでも利用せしむるやうにした方が効果的である。一家の外で誰が金を持つてゐようが、いざといふ時には誰でも利用できる。西洋、殊に佛蘭西で、富の公平

な分配や収入の齊一を唱へ、且つ、幾分か之が実行されたりした。これは一面、彼等の社会が相互間に人情味乏しく、眞の相互扶助が行はれる見込みがないことを示してゐるのである。彼等の相続法の如きも、此の資質をよく物語つてゐる。

富の収入の多少は、其の能力に依り、因縁に依り、甲乙をつけるのは彼自身に對する價値を認めさせ、其の獨創力を活動せしむる上に於ても必要である。私有財産や収入の多少を認めるからといつて、それの利己的活動を認めるといふ心理でない。彼等に道徳的に富を得せしめると共に、道徳的に之を利用消費せしめる、道徳的といふことは、実質が共有的といふことである。これが、古來、日本の財産制度である。それで、旧時代には、現代のやうに大資産家がなく、全体が貧乏であつたに拘らず、現代人以上に物質に不自由するものが少なかつた。

當時の富豪は、其の私生活を質素にし、出交るだけ餘裕を作つた。其の餘裕の一部は蓄積もしたが、大部は皇室に献上したり、神社、寺院に寄進したり、貧民に與へたり、無利息で貸しつけたりした。其の富を道徳的以外に使用することを封じられ、富力の悪用や奢侈ができず、個人の消費生活には貧富の懸隔が少かつた又、自己の富を道徳的、利他的に使用し、利己的に使用できぬといふことは、富を實質的に共産たらしむることであり、富者は富の所有者でなくして管理者となるのである。

日本は、財産のみならず、知識、技術も自己のものを他人に利用せしめたと共に、他人のものも自由に利用することができた。隣に学者が居れば、文盲と雖も何の不自由をも感じなかつた。村に才徳の人がゐれば、愚者も間違を起すともなかつた。日本に限らず、相互扶助のよく行はれてゐる社会は、國民の知能が平均して團票の背競べであるよりも、長短種々ある方が好都合である。國民全体の水準を高めるよりも、天才の養成がより必要であつた。相互扶助がよく行はれる程、天才を自己のそれと同様に利用することができるようから、天才の多いといふことは全体の水準を高めることになる。若し、相互扶助が充分に行はれず、相互に知能を利用するところできぬ社会は、國民各自が自己保存を充分ならしむるため、天才よりも一般の水準を向上せしめなければならぬ。相互扶助の充分に行はれる見込みのない西洋の教育制度は天才を作るよりも全体の才能の向上主義を採らなければならぬのだ。が、相互扶助の充分に行はれる素質を有する日本は、此の反對で全体の才能の向上主義よりも天才教育に重きを置かなければならぬ。それの方が國家も國民も利益である。

斯くして、日本によく相互扶助が行はれ、且つ、相互扶助のよく行はれる素質を有してゐるのであるから、各國民は國內に存す一切のものを利用することができた。則ち、總ての人々の有する富力、力量、能力等を凡て國家社会に提供し、道

徳的に活動せしめた。

古來、日本の政治は、多少不徹底な時代もあつたが、國民の有する一切の力を道徳的、利他的に活動するやうに國民を監督するであつた。これに依つて、國民個人の内容を充實せしめ、人格を完成せしめたのであつた。其の權力の行使は監督力を徹底せしめ、道徳を強化せしめるためであつて、支配者の都合で東縛を與へないのが我が政治の本質であつた。則ち、我が國古來の政治は、智者や富者や有能者を總動員せしめて、其の有する力を道徳的に活動せしめ、全國民に利用の機会を與へたのであつた。若し、利己的の智者、富者、有能者があり、其の力を道徳的に使用するを肯じなかつたならば、國家のため、民衆のため、断然と權力を行使した。又、彼等が其の力を道徳的に活動せしめたならば、國家は飽くまで之を保護し、支持した。それで、明治維新まで數百年間も、中には神代以來繁栄してきた家が沢山あつた。然るに明治維新以來、此の原則を無視し、相互扶助の美風を破壊したので二重の不正が行はれるに至つた。

前述の如く、過去の富者は、近隣の人々の生活を安定させる義務を負はされてゐた。又、彼等は進んで貧者と相親しみ、喜怒哀樂を共にした。貧者のためにかこれと相談相手となり、不幸でもあれば葬の費用位は出してやり、筋道の立つた金なら無利息で貸してやつた。それで、民衆のためには富者は必須の存在で、

金庫のやうに、信用組合のやうに心得てゐた。これの潰れたら、農村の疲弊と人心の險悪との大原因である。今のやうな政治の仕方ではかゝる種類の富豪は潰れざるを得ない。山形縣で酒田の本間家の潰れるのは時間の問題で、同家が潰れると庄内地方は暗闇になるであらうと言つゝある。東北地方の疲弊の根源は、富者を保護して其の富を道徳的に活動せしむるやうにせずして一方では餘りに富者が搾取しすぎ、他方では利己的活動を餘りに煽動しすぎである。彼等をして近隣、知人に富を利用せしむる餘裕を物質的にも精神的にも失はしめた。それで僅かの金に詰り、年頃の娘を二束三文に売るやうなものになる。富者が過去の富者の如く人情の厚いものであつたならば、かゝる小額の金は貸與して娘を売らせずにすませたであらう。又、老人や子供に衣食の心配をさせずにすんだであらう。則ち、現代の財産制度は、富の消費も利用も自由で、之を利己的に活動せしめても支障なくなつた。之を必ずしも道徳的に活動せしめなければならぬ義務はなくなつた。彼等は酒色に耽ける金はあつても、饑に泣く近親者や隣人を扶助する金を持たぬ。

此の現象は、たゞ、個人的の富の活動に於てのみ見かける現象ではない。社会を對称とし、且つ、政府の監督下にある事業に於ても亦見かける現象である。

社会を對称とする事業の活動も収入も更に道徳的であつて、共産の実を備へな

ければならぬ。これを少しでも利己的に活動させてはならぬ。然るに従來の政府は、これ等の事業に對し、正當の競争を禁止して横暴なる勝手気儘な利己的活動を許して來たのである。其の監督は主として設備の点で、民衆の最も重大視する料金は殆んど問はなかつた。其の結果、泥棒と區別のつかぬやうに搾取する会社が沢山に出來た。電気会社、乗合自動車会社等の中に其の例を多く見かける現在、電気会社が問題となつてゐるが、彼等をして旧時代の夫等の如く、充分に道徳的活動せしめたならば、官営よりも遙かに能率があがり、料金も安くなる可能性を有する。原則として競争を許さず、充分の監督をせよ怠慢であるから、利己的活動をなし、横暴や獨善の所業をなすに至つた。

乗合自動車会社も電気会社と同様に、大きな会社程横暴なのがある。伊豆の東海乗合自動車会社や紀州の熊野乗合自動車会社の如きがそれである。官廳が之を利權として其の權利を保障し、他との競争を許さず、自由気儘に民衆を搾取せしめてゐる。其の横暴の程度は電気会社の比でない。若し、これが電気の如く、戸々が毎日需要するものであつたならば、全国的に極端な会社に對し猛烈な値下げ運動が起るであらう。自動車会社横暴の聲の低いのは、民衆運動を起すに便利のよい地方のは料金も安く合理的になつてゐるから之を懲しめる必要が少く、料金が高く横暴なる会社は組織運動を起すに不便な土地にあるからである。

此の現象は、たゞ、個人的事業や公共事業だけに止らず、官廳や官營事業にも見かけるとができる。官吏は官金や官營事業を道徳的に活動させないのみならず之を私金化し、私營事業化してゐる。官金を、合理的であれば、如何に無益に消費しても責任がない。これが國家の歳計を年々増加せしめた一大原因である。若し、彼等が之を自分の金を消費する時のやうに思つて慎重であつたならば、今の半分以下の經費で、より以上の效果的な政治ができる。

又、鐵道の如き官營事業が、道徳的影響を考慮せず、増收のみに專念する。其の結果、〇〇と協力して全國を遊廓化し、花柳病を蔓延せしめた。温泉場の濁化の大部分の責任は鐵道省にある。尚、これが道徳活動せざるのみならず、更に、暴力團のなすが如き口実を以て民衆を榨取するのである。規則の上では兎に角として、實際では殆んど凡て彼等の過失をも乗客の過失へと転嫁し、何程かの金をせしめるやうにしてある。例へば、筆者が紀勢西線の朝來までの切符を求めた處紀勢東線の阿曾の切符をくれた。列車中で気が付き訂正して貰つた處、龜山で打ち切られ、新に賃賃を計算され割高の汽車賃を支拂つたところがある。誤出札の責任を完全に乗客に転嫁して了つたのである。こんな非常識な獨善主義は私設会社では決してしない。又、東京駅で汽車に乗る心算で構内まで入つたが、一寸のところで乗り後れた。次の列車まで銀座を散歩でもしやうと裏口の方から出た處、入場料

を支拂はされた。汽車に乗らずに入場したからださうだ。途中下車の権利があり、且つ、構内は列車の乗車口の延長であるから、物理学上では之を途中下車として支障ないのであるが、こんな三百的口実をつけて入場料をせしめるのである。こんな例をあげればいくらでもある。彼等は道徳的であるものまで歪曲して不道徳にする。斯くの如きは、決して日本的ではない。如何に民間の事業をまき上げて國營としても、之を不道徳化し、泥棒の機關とするものであつたならば意味をなさぬ。

日本の財産制度、生産組織は、前述の如く、人間の本能を利用し、全國民により多く生産せしめ、それの利用と消費とを道徳化し、共産の実質を備へせしめた。如何に多くの物質を所有してゐても、社会公共のためでなければ使用することもできなかつた。自分の金だからといつて之で道樂をしたり、贅沢をしたりすることができなかつた。個人に財産の管理權はあつたが使用權はなく、できるだけ消費を節約して多くの人に利用せしめねばならなかつた。それで、僅かな物でも道徳的に活動せしめたから、社会的價値は大であつた。日本の如く、物資に恵れず、多数の人口を有する國は、富の共同化でなければ、社会の平和も保てない。而して、富の共同化は、國民相互が深い愛情と理解とを以て結ばなければ、如何に制度だけは立派な富の共同化であつても、實際では之の共有の実をあげると

ができぬ。反對に、如何に大膽な私有財産制度が存在しても、相互に一体感さへ豊富であれば、富は實際に共有化される。富者は他人の窮乏を見ては救はれぬから水なくなる。又、貧者も何の遠慮もなく救助を求める。それで、機構主義の救済の制度よりも何よりも國民の一体感を豊富にしなければならぬ。これさへ豊富にあれば、如何に國家が非常時に遭遇しようとも、僅かの物質で、餓える者も凍えるものも出さず、國家的にも個人的にも充分に活動できる。國家の軍事化、國民の共同化は富の道德化に依つて得られる。これが日本の本來の面目である。

然るに、日本は今や非常に脱線してゐる。西洋の官官主義、共產主義を学んで財産制度、生産組織を整調し、非常時を突破せんと企てる如きは其の脱線の尤なるものである。

西洋の官官主義、共產主義は、日本の如く、自然に共同体となり得る可能性のない中間的の社会に發達した思想である。彼等を如何に訓練しても個人主義、利己主義より脱却せしむることができぬ。従つて、日本の如く、國民を總動員して富を共有化し、道德化することができぬのだ。それで、最後の手段として此の思想が發達したのである。併し、實際に見せつけられてゐる如く、之を充分に道德化するとも、共有化するともできぬ。如何に巧妙な制度組織が發達しても、國民が個人主義であつたり、利己主義であつたりして之に協力する熱意がなければ成績の

あがるものでない。之に反し、制度組織は粗雑であつても、國民に共同化と道德化との熱意があれば、此の方が成績があがる理である。

故に、制度組織の改革よりも、先づ國民に富の共同化と道德化との熱意を與へ然る後に制度組織を發達せしめなければならぬ。さうでなければ、國民を精神的に總動員せしむることができぬ。國民を精神的に總動員せしむるといふとは、一身一体の共同活動をせしむるといふのである。群居動物の一身一体の共同活動は、一身一体の共同生活を内容としなければ完璧を期することができぬ。一身一体の共同生活は富の共有化と消費の道德化とが行はれなければ不可能である。國民の共同生活が円満に行はれなければ、如何に精巧なる機構を組成しやうとも、國民を精神的に總動員するとは不可能である。而して富の共有化、消費の道德化は、共產主義や官官主義に依つて達せられるのでなくして、利己主義と利他主義、獨占主義と協同主義、此等の相反する兩本能の綜合に依つて達せられるとが、我が國特異の現象である。人心は微妙である。一面のみを見て他の反面を見なければ必ずや失敗するであらう。

第五章

日本の統制の基礎は生活の統制である

自然的に發展した日本民族は、共同体としては強いが、個人的には至つて自我に乏しく、單獨では自律自戒できぬ。彼等は断じて煙草を喫まぬと決心するが、三十分も経たぬ内に自戒を破つて了ふ。彼等は誘惑に弱く、刺戟に鋭く、誘はるれば自殺でもする。

個人的に自我の乏しいのは挙國一致して國難に當つたり、對外的に武装したり軍事化したりするには非常に好都合である。團體行動には個々の我が強すぎても円満を缺く。上層への感激的順服、下層への全的の愛情も、相互に自我が強すぎ、ては充分の効果をあげることができぬ。

併し、平時に於ては、部分を充實せしめ、個々の機能を發揮せしめなければ、個人的にも國家的にも發展せしむることができぬ。それで、外に對しては飽くまで武装化、軍事化のできる素質を保存し乍ら、對内的には個人生活を充實させる方法を構じなければならぬ。

則ち、日本人が非常時の集團生活をする上に於ては都合がよいが、平常には餘り利他的であり、餘りに精神的である。人間が餘りに利他的でありすぎても、自

己の本能と判断との獨立がなくなる。多数が生存し、且つ、社会全体が向上發展して行くには、他の幸福を傷けぬと共に、各人の個性の活動を自由ならしめなければならぬ。平時に個人の總てが餘りに國家社会の正義にのみ統一され、道德的風潮にのみ追従して自己保存の本能と個人的判断とを否定しては、社会の發展も個性の發達もない。故に、利己主義に陥らぬ範圍にて個性を發達せしむると共に相互扶助と相互干渉とで勵しあつたり、注意しあつたりするならば、忽ち、此の缺点是補はれるであらう。旧時代は、全体に殉ずるといふ道德的基礎の上に、個性を強め、人格に厚みをつけ、單獨でもても放縱に流れたり、墮落したりせぬやうに教育した。そして、其の上に更に相互に干渉せしめて不道德をしたり、墮落したりせぬやうに監視せしめた。日本はかゝる道德的の基礎の上に國家を建設してゐたから、古來、法律の必要が少かつた。道德がよく發達すれば法律は幼稚で發達せぬものである。殊に、日本人の如く、自我がなく、個性の弱い民族では法律だけの力では國民を何れの方面へも進ましむることができぬ。日本人は事物に對し理性を以て接せず、感情を以て接する。表面だけを見て裏面を見ぬ。彼等はお人好しにて悪い奴から何程でも欺されるやうにできてゐる。悪人は脱法の方法を考へるが、善人は法律に執はれぬ。又、國民が法律を遵守せんとするには、相當に意志が鞏固でなければならぬ。日本人の如き性格の弱い民族に如何に沢山の法

律を布き、立法者のよしと思ふ方向へ國民を導かんとしてもそれは失敗に終るであらう。古來、我が國の政治家も法律の便利なることを知つてゐたが、法治主義の政治を行はんとする如き無分別な政治家は少かつた。日本を統制せんとするには徳治主義の政治を以て臨まなければならぬ。強力政治を行ふのでも同様である。

西洋に於ける強力政治は、民間に有する凡ゆる力を國家の手に納め、個人的、地方的、階級的の活動を無力にするか、又は制限し、國家を時計仕掛の如き組織を以て共同活動する仕組になつてゐる。彼等の強力政治は共同活動を重視し、活動の統制をなすが、生活の統制は殆んど問はず、比較的に自由ならしめてゐる之を問うても殆んど無效果であるからである。自我が強く、且つ、利己的の彼等に共同生活を強ゆるとは、無理難題を吹きかけることである。西洋の國々は主として外部に向つて全体の生存權を確立するため之を軍事化するのである。彼等と雖も、生活の統制もしたのであるが、中間的の彼等にはそれができぬ。たゞ、當面の軍事化の必要上、活動を統制して共同活動を強化する、これが西洋の強力政治である。

これに反し、日本の強力政治は、強力な共同活動の統制でなくして、強力なる共同生活の統制である。それでなければ徹底せぬ。相互に個人生活の内面に立ち入り、一つのものでも分け合つて食べたり、利用しあつたり、喜怒哀樂を共にし

たりする強力なる生活の統制である。

日本人は順服の本能が優勢であつて、理窟抜きに 陛下や國家に犠牲を捧げる全体のためには家をも身をも忘れる。彼等がかうした本能を駆つて平常より非常時的の犠牲を捧げしめれば、個人に對し、部分に對し充實せしむるをができません。個人の發展にも國家の發展にも不利を來す。彼等は 天皇のため、國家のために活動してゐると感ずれば、自己に對して無限の價値を發見し、痛ましい程道徳的となる。今度の支那事變に出征した兵士達の大部分は気の毒な家庭の主人だ。彼等は出征と聞いて直ちに天下の重心と同一の気持になり、滞納の税金を拂つたり米屋や家主への借金を拂つたりしてゐる。又、戦地より餓に迫つてゐる家族に出征兵士の名譽のために扶助法の適用を謝絶して頑張れと云つて僅かな給料を送つてきたりするものもある。

此の傾向は、日本人の共同活動の場合に何れも濃厚に見かける傾向で『持たざるもの』が何の保證も與へられずに真先に進み、馬鹿な目を見た例を沢山知つてゐる。学校騒動でも労働爭議でも犠牲者の多くは此の部類に属するものだ。全國民が常に天下國家の事にのみ奔走して自己の一身一家の事を顧みなかつたならば民族の成員的、物質的の發展はない。部分を發展せしめ、個々を充實せしめ、民族を成員的にも物質的にも増加せしめて何時でも最高度の共同活動ができる用意

をして置かなければならぬ。それが富の共有化を内容とする共同生活であつて、國家の場合も家庭の場合と同一の原則に依つて共同生活ができるのである。

家庭に於ては、平常は、各家族がまちくの仕事をし、まちくの活動をするが、いざ何事といふ時には一致團結の共同活動をする。又、其の能力に依つて家庭の各成員の収入はまちくである。一文の収入もない老、幼、女も沢山ある。併し、其の生活は、収入のあるなしに拘らず平等的である。多くの収入をあけるからといって特に奢侈を許さないし、又、一文の収入もあけぬからといって干物にもせぬ。一家の總収入も一家の器具も各自が殆んど平等に消費し、使用する。

これと同様に、我等の道徳は本質上、家族道徳又は其の延長であるから、老幼病人、婦女のみとなつた家庭と雖も、産を失つて一家離散するやうなことがなかつた。社会も政府もそんなことをさせなかつた。これは種々の文献に依つて明かであり、又、徳川時代に於ても五人組制度其他に於て強行してゐる。

例へば、野州安蘇郡赤見村五人組掟帳に

一、百姓の子幼少にして親に後れ百姓仕候儀罷り不成者有之候はゞ親類並に名主五人組相談を以て後日出入り罷り不成様に證文取引田畝預り置き御年貢諸役相勤め其子成人次第に預り置候もの共無相違相渡し百姓に仕付仕申候事とある。尚其の收納の中より幼者の養育料を規定したものが多々ある。又、同五

一、耕作の時分若し百姓相煩ひ田畝植付候事不罷成候はゞ吟味の上、親類縁者は勿論、其の五人組仲間にて難叶時は村中の百姓をして助け可申候尤も刈取節も同断たるべき事

と云ふ規定がある。

斯くして、日本は家族道德の法則に依る共同生活をした。彼等が、假令、幾年病氣をしてゐても、決して租税にも食糧にも困るやうな事はなかつた。況んや、國家、社会のために死んだ人やその功勞者に對してさやである。彼等に對して、社会は絶對の保護を加へ、衣食住に窮するやうな事をさせなかつた。のみならず財産をなくしたり、欺されたり、邪道に踏みこんだりしないやうに監視した。此の確乎たる保證があつたればこそ、いざといふ時に身をも家をも顧みずに進むことができ、又、此の犠牲的精神の發達もあつたのだ。

何人にも生活の保障を與へるには、何人にも奢侈を許してはならぬ。何人にも奢侈をさせぬやうにするには、何人の生活に就ても極端な干渉が必要であると共に、各自の自覺を俟たなければならぬ。過去の日本に於ては、何人に對しても其の生活を干渉したが、又、權力者や富者は自らも遠慮し、平民が饑饉で粥を食べる時には彼等もお粥を食べた。皇族も大臣も將軍も公卿も大名も例外なく下々を

憚つた生活をなした。友人の話では肥後藩では千石の大身の武士も平民達と同様に粟飯を常食としてゐたとの事である。

家庭に於て、家族が饑餓に泣いてゐるのに、主人一人だけ奢侈するとは許されないことだ。主人は妻子を憚つて無駄な消費をせぬ。これが我が國の大部分の家庭の实情である。日本は其の本質上、元來、一大家庭の性質を有してゐたのであつたが、更に之を道德、習慣、人情等の發達にて益々、共同生活が円満となり、平和なる一大家庭となつたのである。

然るに、明治以後の政治家や役人達は無分別にも此の日本の共同性を破壊してつたのである。

彼等は、國民より日本的の道德を奪つて其の代りに西洋的の法規を與へた。又彼等は國民の相互扶助と相互干渉とに依る共同生活を奪つて、之の代りに西洋的の無内容の政治絶對主義を以てした。そして、政治家や役人達は眞先に立つて國民の共同生活破壊の行動を採り、今も継続してゐる。

昔は、陛下と雖も國民の困苦を察せられ、御質素な御生活をされ給うた。天下の執權職と雖も味噌を有に手酌で酒を飲んだ。が、今の政治家や役人達は、畏くも陛下さへ憚り給うたをも憚らず、官金を種々の名目をつけて浪費したり、美妓を侍らせて酒宴を開いたりする。此の非常時に際しても、此の風潮は少しも

矯正されぬ。一概には言へぬが、官廳の機密費の半分は宴会費に繰り込まれると
のである。中には全部宴会費に繰り込まれ、全然機密費を活用させぬ處がある
外國で外國人から情報を買ふに一つに五十円か百円出さねばならぬのであるが、
それを節約して飲んだり買つたりする。其の結果がトーチカと土饅頭と區別でき
ぬやうな大失態となるのである。

又、上級官吏は比較的に慎しむが、事務官級以下の役人が地方に出張すれば大
概売春婦に戯れる。筆者は主として温泉場で生活してゐるから、このことは非常
によく知つてゐる。彼等の下劣な遊び方を見る毎に、日本の國民が気の毒になる
直接間接に税金のために娘を売るものが沢山ある。其の税金の中の幾割か、かう
した役人達の酒色の費になる。役人達は出張の要件を忘れても女遊びするだけ
は忘れぬ。

外國思想に依れば、これ等は法規の許す所であり、又、私生活に屈するものであ
るから一向に支障ないものであるが、共同生活の本義に照して見れば、これほど不
都合なことはないのである。智力的にも、權力的にも、社会的にも支持を有する
彼等が、日本一家といふ深い認識の上に立つたならば、家庭に於ける場合と同様
之が如何に不都合であるかといふことが判る筈である。殊に、此の事変中に於ては
彼等が率先して出征者や其の遺族を憚つて質素な生活をし、夢にも酒色に耽つて

はならぬ。併し、彼等は、遊里に出入しても何をしても日本精神をへ持つて居れ
ばよいといふやうなことを言ふ。が、日本精神といふものは、國民の一身一体の共
同生活をする精神のことで、かゝる非常時には出征者達を憚つて酒色に耽らぬとで
ある。

共同社会に於て、利己的活動をして國家社会の統制を紊すものに對し制裁力が
なければ、相互に一体感も同胞感もなくなり、共同生活は素り、共同活動さへも
不可能となる。一波は万波を起し、一人の利己的活動が全体の利己的活動をなご
しめる。今や、如何に多くの餘裕を有するものでも、貧乏人や出征者の遺族を扶
助する義務がなくなつた。自己の収入又は其の財産を遊興にも奢侈にも相場にも
濫費しても支障ない時勢となつた。其の奢侈や遊興の不謹慎を干涉でもすれば、
暴力行爲として懲役にやられる。それで、彼等は大威張りで人を扶助する代りに
酒色に耽る。戦争に勝つた祝だと云つて、それを口実に酒を飲む。戦争に勝つた
のは出征した勇士達だ。其の勇士達に自分等の飲む酒を祝に送るのなら話の筋が
立つが、戦争に行かぬものが酒宴を開くのは意味をなさぬ。

同じ日本國民に生れ、一方は戦争に行き苦闘し、他方は酒色に耽つてゐる。こ
れでは義憤を感じざるを得ない。銃後のものは出征者と一体感を以て陰膳を据ゑ
たり、私生活を質素にしたり、遺族を見舞つたりしてこそ日本人であり、又、か

うした社会へと完成に努力するものが役人達の義務である。然るに、それが殆んどない。

七二

人間は誰でも酒池肉林に浸りたいものだ。之を取てせぬのは、一つは人前を憚り、二つには物質が許さず、三つには良心に恥ぢる爲めである。然るに、今や、道楽をするに人前を憚る必要がなくなり、其の軍資金も合理的であれば如何に人を泣かせてもよいといふ保證を得た。今や、酒色に耽るそのを罪惡とする觀念は全く地を掃つたのである。

如何なる富豪と雖も、全國民を一家庭の同胞と考へたならば、自分一人で酒池肉林に浸るとはできぬし、又、其の餘裕がないのである。それに取て酒色に耽るには、人の難儀を平気で見逃すやうな冷血漢にならなければならぬ。でなければかゝる資はできぬ。人前を憚つたり、隣人を扶助したりしてゐては一杯の酒をも飲むとができぬ。而して、之が更に積極的になれば、酒色に耽らんがために何でもする。犯罪の大部分の動機は酒色の資の缺亡を補はんがためである。現代人が酒色に耽つたり、贅沢になつたり、濫費者となつたりしたため、人に對して冷淡となり、道徳意識も低調となつたのである。而して、此の國民的墮落に拍車をかけたものは、佛蘭西流の頹廢的自由主義の基礎の上に立つたカフェーや料理屋の自由なる發達である。

男性の情慾は一寸の音でも制止できぬやうに猛然と興奮するものである。殊に敏感な日本人に於てをやである。古來、日本の政治家は、此の敏感なる点を考慮し、女優の如きでさへも却々存在を許さなかつた。況んやカフェーに類する營業の如きは徒らに之を許可することはなかつた。

然るに、現在の役人達は、カフェーや料理店の如き營業を何處にでも許可し、至る處で醜業婦又は醜業婦的姿態の女性が跋扈し、道行く男性に性的興奮を促さしめてゐる。又、最近は、喫茶店と称し、二三十錢程度の入場料を取つて醜業婦的姿態の女性に接近せしめるといふ不都合な營業が勃興して來たのである。男性たるもの油断も隙もなくなつてきたのである。使ひ込み、横領、詐欺等は、彼女達に接近した、めに犯したのが大部分である。埼玉縣廳の百万円横領謀長も宴會で会つた藝者に病みついたのがあの始末になつたのである。近來、官公吏の流職が非常に多い。其の不正の金は何れも遊興の資である。今や男性にも貞操帯が必要となつた。

又、農村の相互扶助的の淳風美俗の破壊もカフェー、料理店の發達が大半の原因をなしてゐる。淳朴な百姓達は面白いやうに売春婦に欺される。彼等の中には山林、田畑は勿論、妹や娘まで売つて村の酌婦に入れあけるものがある。医者のない山村でも多数の料理屋やカフェーは繁榮してゐる。

七三

料理屋やカフェエーの如き営業が如斯發達したといふとは、相互扶助や義理人情がなくなつたといふのである。筆者の親しく見聞する處に依れば、大体娘売りの盛んな土地程、淫蕩の空氣が濃厚にして、相互扶助も共同生活も行はれない利己的土地である。かゝる土地では、老若を問はず、暇と金さへあれば、酌婦對手に享樂に耽つてゐる。彼等は最後の一錢までも享樂の資金にし、利他的に使用せぬ。若し、相互扶助が完成し、彼等の間に持ちつ持たれつの關係が成就してゐたならば、老人や子供に休養を與へ、娘は売られずに家に居て裁縫の稽古でもできるやうに和やかになる代りに、カフェエーや料理屋がなくなるであらう。農山村に於て、料理店、カフェエーの如き営業を禁止し、旧時代の如く、餘裕あるものが、餘裕ないものを扶助すべき義務を負せたならば、娘売りも根絶し、淳風美俗をも取り返すであらう。

又、植民地の人口的發展力の乏しいのも、彼等に共同生活性が缺けて來たからである。海外在住者は一種の調子づいた状態で徒らに奢侈と濫費とに耽ける。例へば、滿洲、北支等に於ける日本人一人當り一ヶ月の遊興費が約百円に達してゐる。子供も老人も婦人も入れて此の額であるから、遊興可能の男子の遊興費は二百五十円位に達するであらう。事変前の上海でも青島でも大体此の傾向を有してゐた。彼等がかゝる濫費をなし、且つ、遊興に多忙であるから、雄志を懷いて遙々

内地より頼つて來た人を扶助する物質の餘裕も氣持の餘裕も持たないのである。若し、彼等が遊里で消耗する物質と時間とを以て此等の人々の面倒を見るならば、立所に今の幾倍にもなるであらうし、又、それが土地に根を有するやうな堅実な移民となるであらう。現在の滿支在住の日本人は何れも大風一過に依つて消滅すべき儂い存在である。五百人か七百人しか日本人の在住してない處でも、一寸の利益の衝突で直ぐに醜い争ひをする。彼等が自分自身を顧みたらば、眞から頼りにするものが一人もないといふ孤獨の姿を異郷の空に見出すであらう。群居性動物は、離群程不安を感じるものはない。彼等は此の孤獨の不安を慰めるために酒色へと走る。酒色へ走れば莫大の金がかゝる。此の莫大な金を得るためには不正をしなければならぬ、不義理をしなければならぬ。此のため、益々相互扶助も共同生活もなくなり、相互に孤独感に充ちられ、早く内地に引きあげたくなる。之に反し、現在でも相互扶助と共同生活を多分に行つてゐる支那人は、収入が増加すればそれだけ多数の近親、縁者を扶助し、且つ、自分自身の生活を向上させる。彼等の發展は實に生物学上の本則たる氏族的、細胞的發展である。これが支那人をして根強く植民地的發展せしむる所以である。日本人が支那人に對抗し眞に日本人の根を大陸に張らんとせば、第一に失つた共同生活性と相互扶助性を取戻さなければならぬ。それには先づ、共同生活や相互扶助を妨げる原因たる

カフエーや料理屋を大陸から一掃しなければならぬ。

七六

奢侈や濫費は必ずしも共同活動を破壊せぬが、相互扶助を不可能ならしめて共同生活を破壊する。

一家の戸主が酒色に耽れば、妻子の生活は骨がさかれ、中には一家離散せねばならぬものも出来てくる。社会に於て、富豪や多收入者が奢侈や濫費をなすならば假令、隣人扶助の人情があつても、其の餘裕がなくなり、國民の共同生活は破壊される。日本の社会は一家の場合と同様に、共同生活の破壊者が最悪の罪人である。共同生活の破壊が國家社会の破壊である。それで、經濟的に餘裕を有するものは自發的に其の餘裕を奢侈や酒色に濫費せおして之の不足する人々の方へ廻す政府も國民も衣、食、住の末に至るまで一々嚴格に制限して否でも應でも中以上は多少なりとも貧者に廻すだけの餘裕を作らせた。それで、家庭に於ける場合の如く、奢侈や濫費するものがなくなつた代りに干物になるやうなものも出来なかつた。人情的にも法制的にも道德的にも共同生活を行はしめた。群居動物の群居の目的は共同生活である。共同生活を除外しては、眞の共同活動も、眞の精神的一致も、眞の國家の統制もない。現在の日本が、此の生活の統制を除外して國家統制を行はんとするから種々の支障を來す。總動員法の如き暴法を制定せねばならなくなつたのだ。日本、古來の政治は、共同生活の完成に重点を置き、實際に

相互扶助の共同生活をなしてゐるや否やを嚴重に監督した。そして、獨逸や伊太利と反對に、共同活動の完成に少しも努力しなかつた。其の活動の方面は大概に自由ならしめ、部分や個々を充實せしめた。

斯くして、日本は國民の共同生活を円満になさしめんがために、相互扶助と相互干渉とを強化する。これが日本の強力政治であり、之を円満に遂行し得る人が所謂獨裁政治家の形態を備へた。日本の強力政治家は、外國の獨裁者と趣を異にし、扶助と干渉との整調者であり、調和者であり、監督者であつた。これが頼朝や家康の強力政治であり、又、所謂獨裁政治であつた。

頼朝も家康も質素にして謙讓であつた。彼等は大家に立脚し、國民を一九とし、た共同生活ができるやうに、道德的の調和を計り、西洋の獨裁政治家に見掛ける如き無理は寸毫もしなかつた。又、西洋の夫れの如く嚴めしい様子もせぬ温厚な君子人であつた。彼等のなした強力政治は、戸主が家庭を強化し、喜怒哀樂を共にするのと同じ方法で、國民相互を人情的に團結せしめ、喜怒哀樂を共にするの如く國民的の共同生活の強化である。日本の如き國家は、信長型、大久保利通型の如く外國に見かける如き強力政治家にして成功したものは一人もない。又、責任を解せず、恥を知らぬ官僚の努力に依つて強力政治の行はれた例がない。日本の強力政治は、上下の干渉と扶助との交流を円満ならしめるものであつて、これ

七

に依つて共同生活が強化される。其の強力政治が、法制的に強化するのでなくして、道徳的に強化するのであるから、其の強力が潜在して形式的に目立たぬ。かかる日本の強力政治が最も優勢に行はれ、一身一体の共同生活が完成したのが鎌倉時代であつた。それで、世界を併呑した蒙古が來襲した時には諸國の兵が下知を待たずに出陣して之を撃滅した。これは、我が國では共同生活を完成してゐるは、共同活動はいと容易に行はれるといふことを物語つたものである。

此のやうに、歐洲の國家統制は共同活動を主とするのであるが、日本の國家統制は共同生活を主とするのである。これは我が國の開闢以來の鉄則で、共同生活を基礎としなければ國家の統制は不可能である。共同生活は相互に人情が豊で、一つのものでも分け合つて食べるやうでなければ円満に行かぬ。共同活動の統制は法律が物を言ふのであるが、共同生活の統制は深き愛情が物を言ふのである。気の毒な人には自分の食べるものを節約して惜しみなく與へる、之を與へられる方もその人情に感激して芳情に報いなければならぬ。かうして相互に人情が豊でなければ共同生活は出来ぬ。彼等は形式的であるより精神的でなければならぬ。表面的であるより内面的でなければならぬ。これは實に純粹の群居性動物の本能である。蜂、蟻等の昆虫でも活動はまちくであるが、生活は共同である。彼等は各籠中に餌がなくなれば同時に全部が餓死し、食物を強者のみが独占せんとす

る如きとせぬ。これは、古來、我が國の饑饉には上御一人も下々を憚らせ給ひ粥食をさされ給うたのと同じ理窟である。此の理窟を制度化したのが我が國の制度であり、此の理窟を円満に実施せんとするのが我が國の政治である。日本の強力政治は此の理窟を益々円満に摩擦なく遂行することである。

日本は、かうして日本民族に最も優勢に有する群居性動物の本能を利用して何の不自由も感せず、國家も統制し、強力な政治もなしたのであつた。それであるから、國家に一朝事ある秋には、共同活動又は軍事行動がより以上に能率があがるのである。彼等は君の爲め、國の爲め、一身一家を顧みず勇敢に飛び出して行くのである。今度の事変に気の毒な家庭の主人が澤山に勇躍出征した、其の内幾万かは護國の輩と散つた。彼等のかうした犠牲的精神が旺盛であるのは、現代の政治や制度がよいのでなくして、國民の素質其の物がよい爲めである。其の國民の良素質とは、共同生活、共同活動をせんとする群居動物共通の本能を最も純粹の形で有してゐることである。

然るに、中間的の歐洲では共同生活の統制をしたくとも其の素質上不可能である。故に、先づ共同活動の統制をし、之が完成した後始めて共同生活の方へ手をつける。併し、之は只手をつけるだけで旨く行かないので當面の問題として共同活動の統制のみに主力を注ぐ。これが、假令、美に見えても日本が之を真似る

必要がないのである。然るに、一部のものは獨、伊の組織又は表面の美に幻惑されて、共同生活を犠牲にしてまで共同活動の統制を企圖してゐる。本末を顛倒したものと言はなければならぬ。

第六章

日本では指導者を當にする制度では強力政治は出来ぬ

近代日本の大驚異の一つは、日本の指導者となり、支配者となつてゐるものが揃ひも揃つて指導能力なく、又、自己の職分に対する知識も経験も無いのである。

にも拘らず、彼等は巖然として國家社会の中樞に頑張つてゐるのである。

これが爲め、國內的には勞多くして能率があがらず、する事、爲す事、一つとして碌でもなく、又、對外的には其の無能を國際間に誇示し、國家の威信を傷つけ、日本人の信用を墜してゐる。多くの怒目を有する我等から見ても、彼等の肩書に比して内容の貧弱なのに驚いてゐる程であるから、何の好意も有せぬ外國人は例外なく之を輕蔑する。たゞ、彼等を輕蔑するばかりでなく、彼等を通じて日本其物をも輕蔑する。又、彼等が日本の立場を闡明するにしても千遍一律、其の愚鈍さを遺憾なく表示し、支那人からさへ五月蠅がられたり輕蔑されたりするのである。

例へば、未だ三十になつたかならなかつた奉天時代の張學良を、我が朝野の名士が日滿親善を説きに盛んに押しかけて行つた。學良は彼等を碌に對手にせず、

何時間も待たせたあけく、面倒だといふ様子を以て『只我等と膝を交へて眞に語らんと思へば旅大を支那に返して出直して来い』と言つて追ひ返してゐた。彼等は學良から馬鹿にされたといふ気が付かず、成程、旅大を支那に返して日滿親善を説かなければ嘘だ、學良の對手にせぬのも無理はない、とのこく引き下つた。そして、本気に旅大還付説を称へ、外國人の嘲笑を招くやうな低能振りを發揮した。當時の旅大還付論は我が政界にても財界にても言論界にても一つの勢力をなしてゐた。

又、彼等の青島還付位其の低能振りを發揮したといふ世界の史上にも餘り類がない。支那は勿論、英國も米國も、まさか日本が青島を支那に還付するやうな事もあるまいと思つてゐたのに、至つて気安く之を還付した。旅大還付論は、只、意見としてだけであつた。が、青島の還付は實際に之をなしたのである。

ウイルソンの全盛時代には、我が知識階級の間に、日本全土を米國に献上し、日本を米國の一洲にした方がよいではないかといふ議論が盛んに行はれた。最近には政治家、貴族、知識階級等、我が社会の凡ゆる部門を網羅した一團が、日本全土を露西亜に捧げ、ソウエツト聯邦の一洲にせんとする猛運動を行つてゐた。現在では大分になつたが、それでも未だ潜在的に相當行はれてゐるやうだ。又、議会で『我が英國』と演説した外務大臣があつた。此の大臣の仲間は日

本を英國の屬領化するに對して無限の價値を發見してゐた。

尚、今度の事変前に支那側の空氣は相當に險惡であつたが、所謂我が名士達は支那人から盛んに御馳走になつてゐたため、これに気がつかなくなつたところである。支那人は腹に一物ある時程、にこくしお世辞がよい。我が名士達は之を察せず、其のお世辞と御馳走とに酔つて殆んど裏面を見なかつたのである。

こんな例はいくらでもある。之は要するに指導や支配する階級の人々が揃ひも揃つてお人好であるを物語つてゐるのである。支那人が日本の名士を評して『日本人は至つてお人好で二三度の会食で完全に籠絡する事ができる』と言つてゐる。支那人から見ても日本の名士も政治家も子供のやうで殆んど太刀打ができぬ。支那の政治家達と太刀打のできぬ日本の政治家達は、政米の政治家達とも太刀打ができぬ。彼等と会へば何でも彼でもお辞儀と祝儀と宴会とでお茶を濁し、正當な自己主張をしない。今度の事変に際し、沢山の國民使節が政米に出かけて行つたが、一二の士を除いた殆んど全部はお辞儀のみして廻つたのである。彼等の行動を見るにつけ、聞くにつけ我等は齒痒くなつてくる。

日本の對支行動は正義の行動であり、又、聖戰である。これに就て外國に殊更に諒解運動をする必要はない。唯、日本が列國に追従せしむる必要があつた時に始めて、日本に追従するの道德的、物質的利益の点をあげ、之に追従せしめな

ければならぬ。客観性を有する國家が、無内容のお辞儀だけでホロリとして日本に味方するといふやうなことはない。此の点が國家と講談本にある俠客との違ひである。講談本での俠客は至つて簡單にお辞儀で動くが實際の俠客は却々そんな理には行かぬ。我が外交は、傳統的に、現実の國家と講談本の俠客との正別をつくる事ができず、お辞儀だけで終始してゐる。國家が他の國家に味方するには道德的、物質的、政治的の利益がなければならぬ。お辞儀して廻るよりも利益を説いて廻らなければならぬ。故に、通り一遍の親日外人ですら、今度の日支事変を説明するに當つて、親日が如何に政治的、物質的、道德的に利益が多いかといふ点をあげて説明する。例へば、英國のバーンス少佐が二月三日夜ワシントンにて

日本の支那統轄は秩序の維持と經濟的發展とを招來する。その結果、米支間の通商貿易は盛んになる。日本の支那占據は米國に物質的福祉を與へるだらう。

と、日支事変に就て演説した。

日本の指導階級にこんな言へ、且つ、之を数字的に具体的に如何に多くの利益があるかといふを説明する事ができるならば、列國を誘ふともでき、世界的になりつゝ、ある對日ボイコットも起らぬに濟んだであらう。殊に、列強間に政治的、經濟的に潜勢力を有する猶太人は損をする事が大嫌ひである。日本に味方

して利益をあける事ができれば、直ちに宗旨がへして日本の味方になるであらう。これは、たゞ、對上だけでなく、總てに對して我が指導階級達は世界に物を言ふ方法を知らず、又、其の能力もなく、口でも手でも外國人と太刀打のできるものは少い。

此のやうに、日本の指導階級は民衆に對して威張つてゐるが、外國の指導階級とは全然太刀打できぬ。其の上に、更に、外國の文明に對して頭が上らぬ。彼等は政米人のするとなら何でも眞理だ、外國人の生活方法は何でも合理だ、日本の事は何でも駄目だ、封建的だと信じてゐる。彼等は國民を駆つて政米文明の奴隷たらしむるを以て指導と心得てゐる。彼等は政米文明を『眞理』と僭稱し、『人類文明』と詐稱し、政米人の立場にて日本人を見、世界を見る。眞に日本を指導するには、先づ自國の立場に立つて自國を見、世界を見、然る後に外國の立場に立つて日本を見なければならぬ。主觀の上に客觀を綜合して始めて物を完全に見ることができぬ。彼等にはこれができぬから、日本人を駆つて政米文明の奴隷たらしむる以外には何の能力も持つてない。彼等は外政のみならず内政にも限りなき失敗を重ねてゐる。此の時局に於ても切腹せねばならぬやうな失敗を沢山重ねてゐる。併し、彼等は反省する代りに國民の口を塞いで了つたのである。

日本の昔の指導階級は、これ程までに不仕舞でなかつた。が、七八十年前に、

日本が未だ世界の何物たるかを知らなかつた時に、不意に欧米の恐喝に会ひ、所謂彼等の長所を学ばざるを得なくなつた。他の優越を認めて之を学ぶとは、多くの場合に於て、自己を虚しうするを條件とする。彼等が欧米を学ぶに際し、餘りに自己を虚しうしすぎて全く日本を忘れるに至つた。彼等の思想なり学問なりは、一切が欧米が標準で、欧米の学者や政治家のやる事を真似さへすれば、日本の事は何も知らなくとも支障ないと心得てゐる。或人の話では、高等学校、専門学校、大学の学生は勿論、大学の学生ですへも其の大部分は、官幣社と國幣社との區別神官と神職との區別を知らぬのとである。こんな區別は欧米の方が却つて知つてゐる位である。今に日本人が日本の事を日本人に聞くより欧米人に聞かなければ判らぬ時代が来るかも知れぬ。多くの教育を受けたもの程、高い地位についたもの程、より少く日本の事を知り、日本及び日本人の本能を主体に置いて日本の問題を商量する能力を喪失した。主客顛倒して木乃伊取の木乃伊になつたやうなものである。日本の問題は日本の問題である。日本の問題を解決するには、日本及び日本人の諸條件の上に立脚せねばならぬ。日本の指導者達が日本に関する知識を缺如して何で日本人を指導し、日本の問題の解決が出来よう。

元來、日本民族は、他民族と異り、國民一般の能力が平均してゐる。欧米でも支那でも、一般と指導者との能力、知識の差は甚だ大であるが、日本では、知識

の点では兎に角として、其の能力には殆んど上下の差がない。國民全般の水準は何れの國民よりも、何れの民族よりも高いが、所謂指導階級の水準は何れの國家の夫れよりも、先天的に遙かに低い。何れの國家でも其の興亡は指導階級を中心としたもので、之の躍進は國家の勃興となり、之の衰退は國家の滅亡となる。これに反し、日本の興發は民衆を中心としたもので之が自覺すれば、如何に指導階級が下手なことをしようとも國力は躍進する。則ち、軍隊の如く、農業の如く、工業の如く、日本を價値づけたものは何れも民衆を中心として躍進したもので、指導者を中心としたものは一つもない。現在日本は指導階級の低劣を國民の優秀さで補つて國力を躍進せしめてゐる。指導階級の負債を一般人が支拂はされてゐるやうなことである。

故に、日本古來の制度組織は、其の能力に上下の差の少い点を考慮し、指導階級に頼らず、指導者がなくても済むやうなものであつた。而して、今や、彼等は先天的に指導能力の劣れる處に、更に、後天的に日本及び日本人の立場を忘れ、之の知識を缺いでゐる。彼等に日本の一切を委せるとは、猫に鯉節を預けるやうなものである。彼等を信頼し、彼等に日本を委せたならば、日本は如何になるか判らぬ。彼等に指導を仰ぐが如き制度組織は益々國家に危険であるから、日本の制度組織は、彼等に頼らず、彼等が存在せずともすむ制度を創造する必要に迫られ

てゐる。然るに、此の非常時の声を聞くに益々烈しくなるにつれ、改米の制度を益々濃厚に眞似て、指導力が先天的にも後天的にも劣れる彼等の指導を當にする制度が發達した。國民は、愈々、無能な官吏の意向を無視しては何事もできぬやうになつた。此の傾向は今後益々烈しくなるであらう。

改米でも支那でも指導階級が一般より遙かに識見も能力も優秀である。これに指導を仰ぐ方が國家的にも社会的にも整調され、統制のある共同活動も共同生活もできるのである。故に、改米の制度組織は、此の点に立脚して指導階級の優秀な能力を當にするやうにできてゐる。併し、日本の指導階級は一般より何の優所もない上に、現在の如く、日本及び日本人を忘れ之を解せない彼等に日本を任せるとは甚だ危険である。それよりも、世界の何れの國民より優秀なる民衆の能力を信頼し、之に任せる制度組織を發達させた方が遙かに危険が少い。此の意味に於ても、指導階級の能力を當にするを根本とした改米的の制度組織は本質的に我が國と相容れない。我が國と本質的に相容れない改米的の制度を以てきて、政治を強化し、社会の統制を成就せしめんとしても無理なことである。彼等の能力を當にするとは、政治の強化でなくして、政治の破壊である。あんな多数の官吏と官廳があり下ら碌な政治ができぬなどは、政治の破産を表示したものである。然らば、新時代の日本の政治は如何なる原理の下で進んで行つたらよいか、又

其の政治の強化は如何なる方法を以てしたらよいか、夫れは、前述の如く、指導階級はあつてもよいが、彼等の能力を頼らず、國民自身の能力を自頼し、國家の環境と民族の個性の基礎の上に立脚しなければならぬ。此の條件の上に立脚しなければ、國家又は社会を完成せんとする眞の制度組織は發達せぬ。國家の制度組織とは國民の共同生活、共同活動の体制である。此の組織活動は普通に『綜合』と『統制』との二つの方法に依る。

則ち、普通の概念的の國家又は社会を完成する制度は、綜合にも偏せず、統制にも偏せず、綜合と統制と双方同額の出資に依つてなされる。併し、こんな國家又は社会は殆んどなく、何れも統制を主とした制度に偏するか、又は、綜合を主とした制度に偏するかする。此の兩者の比率は國家の個性と其の環境とに依つて相違する。國家を強力なる共同体とするに、綜合を是とするも、統制を是とするのも、國家の個性の如何に依つて決定する。其の個性も考へず、統制を是とする如きは偏見の尤なるものである。綜合は一体となるために自分自身で中心に向つて引き締つて行く作用を有し、統制は一体となるために、外部又は上部より支配するものである。國民の能力が不揃で、優秀なるものがある代りに、始末のつかぬ劣悪なるものが存在する國家及び國民が民族的にも階級的にも分裂分岐してゐる國家は、統制を主とし、綜合を従とする制度組織が發達するやうである。國民の

能力が不揃ひならば、國家は優秀なる能力を有するもの、能力を利用し、之を當にする制度を發達させた方が、國家の能率が増進する。こゝに指導階級が發達し指導階級の統制に依つて國家の能率が増進する。又、國民が民族的にも階級的にも分裂分岐してゐる國民は、如何に努力しても求心の綜合は行はれぬ。法律又は支配階級の發達を俟つて、それに依つて統制せねばならぬ。こゝに、法治主義の政治思想や、指導階級の能力を當にする統制的制度が發達する。歐洲や支那は此の部類に属する。若し、かゝる國家にして法律や制度が幼稚であつたり、指導階級が無能であつたりすれば、それだけ國家としての機能が鈍る。此等の國家は指導者が優秀であれば、法律や制度が發達する。法律や制度が發達すれば、指導者の能力を充分發揮する事ができ、従つて國家の能率を増進する。

これに反し、一家の自然的に發展した國家とか、上下の融和がよく行はれてゐる國家とか、上層が愚鈍で下層が優秀である國家とかは、自然に綜合が統制より有力となり、綜合の基礎の上に統制が行はれる。かゝる國家は法律より道徳が發達し、權力よりは扶助が効果を致す。

而して、日本は上層の愚鈍なるに反し、民衆は何れの國民より有能であり、利他的であり、精神的であり、君主や國家に對する順服心が旺盛である。此等の諸條件に、一家の自然的に發展した一大家族といふ條件をも加へ、これを基礎に共

同体としての國家を完成するには、綜合を主とし、統制を従とする制度が發達しなければならぬ。

則ち、日本民族は上層が愚鈍であるに反して一般が優秀であるから、國家が上層の指導統制のみを當にする制度が發達したら如何なる尙違が起るか判らない。上層の指導統制を當にせず、優秀なる一般の自覚綜合を當にする制度の發達するのは自然の教である。

又、日本人は順服心が旺盛にして、それが、假令、嘘であつても、忠君愛國の爲めと言へば、自己を忘れ、家を捨て、之に殉ずる。若し、支配階級が此の民族の先天性を悪用したり、濫用したりして國民に國家社会への順服のみを事とせしめ、個人生活を充実せしめる餘裕を與へなかつたならば、各自の自己保存の本能と個人的の判断とを喪ひ、個人生活の萎縮を來し、民族の廢頽を招き、却つて、國家社会の發展を阻害する。故に、平素は各自の個性的活動を自由ならしめなければならぬ。各自の個性の活動を自由ならしめ、且つ、國民の共同体を完成するには、下層より上層へ向ふ綜合を主としなければならぬ。そして、國民の順服の本能を悪用したり濫用したりして、個人生活を萎縮させ、民族の廢頽を招く危険を藏する支配階級の發達を阻害しなければならぬ。

更に、又、日本の如き一家の自然的に發展した國家は、一般の群居性動物の社

会と同様に、自然に求心的の制度が発達する。求心とは、多くの場合、外部より内部に向つて綜合して行くのである。此の現象は無意識的に、本能的に行はれる。日本に自然的の求心力があれば、如何に個々に部分に充実し、其の機能を發揮しても、利己主義に陥りさへせねば自然に一つに綜合して行く。自然に一つに綜合して行くならば、個々を充実にせしめる程、全体としての能率が上がり、國家も社会も強化されることになる。

如斯く、共同体としての日本の完成は、以上の如き諸條件に基き、綜合を主とし、統制を従とした組織活動に依つてなされる。則ち、日本では指導者を當にせず、民衆が相互に注意しあつたり、勵しあつたりして先づ個々を充実にせ下ら求心的に一体へと綜合して行く。然る後に、個々が實際に充実に充ちてあるや否や、求心的に一体へと綜合して行つてあるや否や、これを検査する監督的の統制勢力が上から下へと發達する。これが神代より行はれた我が國家完成の公式である。

日本がかうした原理の下に、先づ活動を開始して家族制度を成立せしめた。日本の家庭は、日本の國家と同一の性質を有する國家の縮図であり、且つ、國家の最小單位である。

家庭では家長を中心に相互扶助と相互干渉との統制のとれた共同生活をする。一文の収入もない老、幼、女がある。彼等は収入のあるなしに不拘、相互扶助と

相互干渉とをなす。此の相互扶助と相互干渉とが円満に行はれる程、家庭の一身一体の共同生活が円満に行はれる。家族は戸主に向つて求心的に綜合して行くと共に、戸主よりは家族に向つて脱線せぬやうに統制して行く。家長が暴君であつたり、絶對權を振ひ、家族の干渉又は意見の綜合を許さぬ家庭は決して繁栄せぬ繁栄しても永續せぬ。

家庭の生活は共同生活であるから、何事によらず相互に相談し合はなければならぬ。相互に注意しあつて間違ひのないやうにしなければならぬ。相互扶助もなく、相互干渉もなく、各自勝手なことをしたり、考へたりしてゐては共同生活は出來ぬ。彼等の共同生活は家庭を完成するのみならず、各成員の人格をも完成する。其の扶助も干渉も家庭内位実意を以て行はれる處はない。

併し、家庭は充分に智力を備へた壯者よりも、老、幼、女子が多く、國家の縮図としての家庭が完成するには容易でない。そこで、少數の氣の置けぬ地縁的にも血縁的にも相互扶助と相互干渉とに便利のよい者同志が團結し、相互に個人的家庭的の缺點を指摘し合ふ五人組制度が発達したのである。我が國の五人組制度は大化改新以後は勿論、恐らく、神代より存在してゐたであらう。

何處の五人組掟にも組内は殊に仲好くして争ふな、争ひが起れば相對づくで穩便に解決せよ、相對づくで解決の出來ぬ事は名主、庄屋から裁判して貰へ、公事

訴訟はできるだけするな、公事訴訟するにしても名主、庄屋の承認を得なければいけない、若し、名主、庄屋の承認をとれぬ時には其の理由を記載せよ、と云ふ意味の事がある。

かく、五人組には組内の自治をやらせ、組内の事に就いては滅多に名主庄屋にも干渉させぬやうにした。彼等は一家の如く仲よくし、相互に他の非難を受けぬやうに警め合つた。日本人は一人々々では他國民より個性が弱く、断行力に鈍いが、幾人が聯合すると何れの國民より個性が強くなり、大なる実行力を有する。これが日本人の特異の現象の一つだ。而して、此の五人組制度に依る共同生活は自我の乏しい彼等をして、結局、個性の強い英國人や獨逸人以上に自我を強くさせ、律儀者たらしめた。

全体の善悪は單位の質の如何に依つて決定する。此の五人組制度は、個性が弱く、依頼心の強い日本人を相互扶助と相互干渉にて自律自戒せしめ、其の單位を出来るだけ良質ならしめ、然る後に、更に之を完成するため、畏敬するものが上にあつて親心を以て之を鼓吹する階級が發達した。これが村里の長たる名主、庄屋である。親心とは知力的、体力的、經濟的、權力的に支持の多いものが、少いものに對して親のやうな心を以て導き、立派に獨立獨行の出来るやうに指導するのである。日本の法規程、嚴重な中にも親心に充ちてゐるものはない。個性の弱き

日本人に對し、支配者が征服者の如き態度を以て臨んだならば、萎縮したり、兇暴になつたりする。さりとして甘い處のみ見せたならば、彼等の依頼心と不仕懸とを増長せしめ、五人組制度が無爲に歸する。それで、上は下に親心なる統制力を以て、下は上に對して子心なる綜合力を以て臨ましめた。村里に於て、民衆は庄屋、名主に向つて求心的に綜合して行くと共に、庄屋、名主も民衆が脱線せぬやうに統制して行つた。其の綜合も統制も人情を基本とした。何處の五人組掟帳にも庄屋、名主を眞実の親と思ひ何事でも相談せよ、と述べてゐる。

則ち、家庭又は五人組を單位とし、個性の弱い彼等をして自立獨往せしむると共に、名主、庄屋に依らしめて孤獨の不安を一掃せしめたのであつた。名主、庄屋は民衆のために生れて來たかの如く、民衆の思案に餘つたとは何でも面倒を見てやつた。彼等は凡ゆる点に於て民衆の親たるの実を示した。

併し、此の名主、庄屋と雖も日本人である以上は、日本人としての弱点を備へ上に畏敬するものが眼を光らせてゐなければ不仕懸に落ちたり、横暴を働いたりする危険が多い。何處の五人組掟帳にも、名主、庄屋が不公平な取扱ひをすれば訴へ出よ、と云ふ意味の事がある。それに、隣村との關係、其の他村里だけで解決のできぬ問題が多々あるから、彼等の上に代官の如きものを必要とした。同様の意味にて、小名、大名、將軍を必要とした。彼等は何れもそれ相當の團體の

長であつて、家庭、五人組、村里の場合と同様に、何れの團體も其の長に向つて求心的に綜合して行き、其の長は之を統制して分散せぬやうにする。

かうして階級が發達し、先づ、民衆は自分の事は自分でやる。自分で解決の出來ぬ事のみ上へ送達する。そして、各階級に於て、送達された問題の解決を計ることでも解決のできぬものを、又、上へ送達する。これに依つて、五人組制度は徹底し、民衆の自由は増大した。形式的には何であらうとも、日本の階級は、民衆の自由を基礎とし、彼等の解放のために下から發達したのである。外國では非民衆的、非解放的な階級制度が、日本では民衆的な制度として發達した。独逸人が若し個性の弱い民族であつたならば、彼等の聰明に依つて五人組制度と階級制度とを創出して政治を行つてゐるであらう。否、現に之に類する制度で政治をなしてゐるのである。独逸の官僚制度は独逸人の利己心を封じ、利他心を以て構成された一種の階級制度である。日本が開闢以來、幾度破壊されても懲り性もなく建設されたものは、五人組制度と五人組制度の上に發達した階級制度とである。聰明なる政治家があるならば、此の両制度の中に、日本の眞理も日本人の自由も強力政治の基礎も嚴存してゐるとが判るであらう。

而して、此の両制度の根本目的は、個人の人格的完成である。前述の如く、日本人は個人的には自我がなく、個性が弱いから、如何によい制度でも、個人を單

位としたり、上層の指導を根本としたりして個人を直接に國家に従服せしめるやうにするならば、個人の人格を未完成ならしむるのみならず、全体の能率を非常に低下せしめる。が、充分に相互扶助と相互干渉とができる關係の家庭又は近隣教戸を單位とし、國民を充分に道徳的に人格的に完成せしめた上、次ぎく之を綜合して行き、遂に國家全体に及び、國民各自の個性の上に國家を建設したのと同じとなり、個人の能率も全体の能率も増進する。

併し、如何に日本の國家と雖も下より上への綜合だけでは不充分である。國家の複雑化と國民の増加とは益々綜合だけでは共同体を完成するのが不充分となる。此の綜合の不充分を補足する爲めに、上より下に向ふ統制が發達する。併し、此の統制は、飽くまで綜合の從であり、補助であり、苟くも綜合の進行の阻害をしてはならぬ。従つて、統制が綜合の補助となり、綜合の進行を阻害せず、其の使命を有効に顯はすには、綜合の基礎に立脚し、綜合の意志を尊重し、統制の独斷專行に墮ち入らぬやうにすることである。これが共同体としての國家を完成せんと努力する日本の政治、道徳、其の他の文明の特異の点である。

斯くして、日本の政治、道徳、其の他に於て、統制を以て綜合の進行を妨げず之を助長させるためには、先づ、第一に下より上に對する干渉と下層の大衆的自己主張とが許容された。此の干渉と自己主張とを円満ならしむるために、上層程

欠

かる忠義は外國にはない。支那や西洋は奴隸的服従を以て忠義となしてゐるから忠義を以て封建的道德と云へ言つてゐる。併し、日本には絶対服従の忠義といふものがない。外國思想に依つて觀念の上では之があつても實際ではない。

此の忠義の道德と同様に、國民の求心的綜合を妨げぬため、上層程、遠慮の徳と責任感が發達した。

畏れ多くも 仁徳天皇は國民の疲弊をあげられ給ひ、三年間も免稅され、平民同様の御質素の御生活をされ給うた。今上陛下も今度の事変以來、出征將士の身を柔じさせられ給ひ、御避暑も御遊宴もされ給はず、國勢に御精勵の御由と漏れ承る。御歴代の何れの天皇も何れ方らぬ御仁徳を垂れ給うたのである。又、非常に強き權力を有する大小名も、饑饉その他の非常時には人民を憚り人民同様の生活をした。相馬藩主の如きは何十年も粥食をしたのである。

尚、大名が必要に迫られて増稅するのでも、武士を出張させ、民衆を集めて之の承認を求めた。彼等は民衆から徴集した租稅を民衆の苦勞を察して少しも無駄な消費をしなかつた。大名と雖も一粒の米も粗末にせず、食事の時にこぼせば拾つて食べたとのとである。況んや大名以下のものに於てをやである。權力者が遠慮の徳を有するといふとは、平民の權利を認め、平民の綜合を円満に進行させる爲めである。

最後に、彼等に責任感が異常に發達したとも同様に平民の地位を認め、下より上への綜合を円満ならしむる日本特異の事情が存する。

彼等は例へば何かの事業をなすのでも、豫算よりの正當の超過でも責任を執つた。其のよき例は木曾川治水工事に於ける薩摩義士である。

宝曆三年幕府は薩藩に木曾川の治水工事を命じた。之は却々難工事で豫算より多くの失費があつた。監督の任に當つた家老平田正輔以下八十人の武士は人夫と共に土砂の運搬をなし、少しでも、其の費用の輕減を計つた。にも拘らず、其の出費も日數も豫定より遙かに超過した。今の常識では何の責任もないのであるが、當時の常識では責任を感せねばならなかつた。彼等は、藩民の膏血をこんな澤山消費しては藩主にも藩民にも申し訳ないと云つて正輔以下八十人、切腹して相果てたのであつた。若し、彼等が恥を知らずにおめくと鹿兒島に引揚げたならば、社会の非難を蒙つて切腹を申し付けられたであらう。

これに類する例は沢山ある。彼等は上に對しても責任を執つたが、より以上に下に對しても責任を採つた。

前にも一寸述べたが、群居性動物は共同生活、共同活動をするため中心に向つて綜合せんとする求心的綜合的の根強い本能を有する。若し、群居性動物にして求心的綜合的の本能が發達してゐなければ、彼等の群居生活は不可能である。彼

等は何かの原因にて一時は分散しても、間もなく、求心的、綜合的の本能に依つて一体となり、以前と同様の群を拵へる。群居性動物の群居本能は、求心的、綜合的の本能のとである。

而して、人間に於ける此の群居本能の純粹の顯水は通称『意氣』と呼ばれてゐる。二人以上の人間が感情的に綜合され、一体となつた時を『意氣が合つた』と言つてゐる。共同活動に於て、此の意氣が合はなければ、其の能率をあげることが出来ぬ。殊に、これは日本人に於て甚だしいのである。彼等は、全体の意氣が合小程、其の能率を増進する。最近、上田蚕糸専門学校の一教授が

工場に於てよい生糸を生産し、且つ、其の能率をあげるには、指導を含める全体の意氣が合小が第一の條件である

といふ意味の事を發表した。これは、日本人として極めて平凡な常識であるが、彼等には、これが却々氣付かなかつたのである。日本人間に於て、此の意氣の合小ことを第一條件とするのは、たゞ、工場に於けるのみでなく、總ての場合に適應する。殊に、戦争の場合に於て、何より此程大切なものはないといふ事は、一度でも實戰を経験した人々の口を揃へて称へるところである。國家の場合と雖も例外のある理はない。國民全体の意氣が一致する程、國家の能率が發揮される。日本の政治は、一面、如何にしたら全体の意氣を一致させるとができるかといふ

工夫である。この工夫を除外しては、日本の政治も道德も能率をあけることができない。故に、日本の政治に於ては、只管、求心的の綜合が完成する工夫さへすればよいのである。求心的の綜合が完成すれば、全体の意気も一致し、如何なる國難も乗り切ることが出来る。過去に乗り切つたやうに、これからも乗り切ることが出来る。國家の個性を西洋の夫れと根本的に異にする日本は、飽くまで綜合を主とし、西洋的の官廳や法律を模倣してはならぬ。尚、又、世界一愚鈍の称ある權力階級の指導を當にする組織を發達せしめてはならぬ。かゝることは、日本人の素晴しき、綜合力を弱め、意気の一致を乱す。意気の不一致が如何に共同活動に於て不利であるかは幾度も戦争をしてゐる軍部が最もよく知つてゐる筈だ。日本が凡ゆる方面にて國家の能率を發揮せんとせば、個々の充実と綜合の發展とを自由ならしめなければならぬ。故に、日本にて發達せしむべき制度は、統制を主とする法律や官廳でなくして、綜合を主とする相互扶助と相互干渉とである。此の爲には、西洋的の理論の殻の中に深く困ぢ籠つてゐる一切のものを撲滅すると共に、我等の先祖の制度と經驗とを深く内省して、日本的の新時代に相應する制度を創造しなければならぬ。

第七章

物資と物價とを如何にして統制すべき

今度の事変が始まつて以來、軍需景氣と公債の増發とに依り、激次に物價が昂騰して來た。政府は物價の昂騰を抑制し、國民生活の安定を興ふるために、暴利取締令を改正したり、消費の節約を奨励したり、最高價格を設定したり、生産力の拡充政策を採つたりして政府人の智慧のありたけを絞つてゐる。

併し、我が物價は之等の諸對策の実行に拘らず、益々昂騰をつゞけ、尨大豫算の円滑なる遂行を妨げる懼れあるのみでなく、國民生活を益々不安ならしめてゐる。如何に公定價格が決定され、之より高價で取引してはならぬと言はれても、合法的に制限以上の價格にて売買する方法はいくらでもある。政府の制限と云ひ國民の自制と云ひ、需要的の刺戟を與へずら、其の慾望を充させないやうにするのは、仕掛や掛声の業々しいに似て、效果の乏しいものである。物價は依然として大なる底力を以て昂騰を続けてゐる。

これに對し、政府及び民間の機關では頻りに對策を練つてゐるが、其の多くは獨逸人の經驗を焼き直したものである。彼等の案では、綜合的に物價を統制する中樞機關を設置し、其の下に標準價格を決定する監督機關や評定委員會を設け、

之に依つて、全国的に物價を統制せよといふやうなことを言つてゐる。併し、如斯
 案で物價の調節が可能なりと断し得るものは非常識の彼等と雖も、良心を備へて
 ゐる限り一人もない筈である。彼等は此の案の效果に就いて確信を有する理でな
 いが、其の職分と行がかり上、其の場を胡麻化してゐるだけである。彼等の常識
 と能力とではこれ以上の良案を立てるのは不可能である。

現代人は西洋流の法律と政治とに餘り信頼を置き過ぎてゐる。我等はそれがピ
 ンからキリまで間違つてゐると言はぬが、形式にだけ複雑にて内容の空莫なこ
 れ等に全幅の信頼を置き失敗するとは火を睹るより瞭かである。人間界も自然界
 と同様に、其の現象は甚だ複雑微妙にして、これをよしと思ふ方向に進ませると
 は表面的の細工だけではできぬ。たゞ、一時の必要に應じて布ける政治でも法律
 でも、相當の必然性を附與せざる限り效果をあげる事ができぬ。政治、法律等が
 充分の效果をあげるには、先づ、人間の本質と問題の根本とに觸れ、之を基礎に
 凡ゆる手段をつくして始めて可能である。人間の本質にも問題の根本にも觸れず
 只、役人達の偏狭な頭から割り出されたる政治、法律の手段で效果を納めたとは
 未だ曾て一度もない。

輸入制限といひ、公定價格の決定といひ、要は、與へられたる數量にて需要を
 充し、物價の昂騰を防ぐのが目的である。これに對し、今までのやり方及び考へ
 をあげることができぬ。
 人間も一種の動物であり、大人は子供の成長したものである。動物や子供は欲
 しいものがあれば危険を冒しても之を獲んとする。併し、彼等は基本的の衣食住
 以外は、見ぬもの、知らぬものには需要慾が起らず、起つても輕微なものである
 大人も動物や子供と同様に、見れば欲しくなり、之を獲んとする。彼等に充分の
 金を與へ、好きな品物を見せ、購買慾をそゝり乍ら、之を買ふな、自制せよ、と
 言つても無駄である。若し、政府が與へられたる物資にて國民の需要を充分に満
 たさしめ、尚餘りあるやうに節約せんとするならば、

一、購買慾を他の方面に誘導し、金を持ってゐて品物を見ても強き購買慾が湧か
 ぬやうにする
 二、國民に餘計なものを買ふ金を持たせぬやうにする
 三、需要慾を刺戟し、消耗を盛んならしむる如き品物を可及的に製造せしめぬ
 四、國民に節約の徳を養はしめ、如何なる物品でも可及的に大切にせしめる

以上の四つの原理を中心に凡ゆる手段を構じたならば物資の需給と物價の調節と
 に相當の效果をあげることができらうであらう。

第一の金を持つて好きな品物を見ても強き所有慾が起らぬやうに、之の熱情を他に誘導する最も簡単な方法は、彼等の興味を駆つて肉慾と賭博とに耽らしむることである。

人間は男でも女でも総じて情慾の満足を第一とする。此の情慾に最大満足を齎ち得んがため、他の慾望は万事糠味噌的に質素にする。持つてゐるものも手放す異性の愛を求めて山も田も家も売り拂ふものが多い。恋さへ満足できれば竹の柱に茅の屋でも大殿堂に住む以上に楽しく、糠味噌でも山海の珍味以上に美味なものである。性慾の満足は酒の代用にもなり、飯の代用にもなり、着物の代用にもなる。独身時代に不足を告げてゐた青年が、結婚すれば、同一の収入で妻子を養うた上に貯金ができる。他の一切が不自由しても、あの方さへ満足得らるれば、却つて其の不自由が享樂できる。何一つ不自由がなくとも、あの方に満足が得られないならば、彼の人生は暗いものとなる。而して、二人の愛情が密であればある程、物質的の不自由に堪へるとができる。只、虚栄心の上に恋愛が成立した場合のみ、物資の消耗と財貨の濫費とが行はれる。故に、男女の愛情と虚栄心とを分離し、早婚政策を採り、独身者を根絶するやうにしたならば、物資の消耗率を減少して國民經濟の上に好結果を及ぼすであらう。

次に、國民を賭博に耽けらしめても同様に自然的に物資の消耗を節約せしむる

人間には無限の慾望があるが、自己の金錢には限度がある。襲ひ來る慾望が自己の実力の幾倍にも幾十倍にも達する。こゝに人間には僥倖心と空想とがあり、其の場で慾望が充たれなくとも悲觀もせず居られる。僥倖心と空想とが飛躍すればする程、現在の不運と貧乏とに堪へるとができる。而して、最も大衆的に僥倖心と空想とを飛躍せしめる手段は賭博の合理化である。若し、政府が國民の僥倖心と空想とを煽動せしめたならば、彼等は必要なるものも買はずに之に投資して賭博に耽るであらう。

旧時代の江戸の労働者の大部分は半纏と蒲團とか持つてゐなかつた。冬でもこ水より以上の着物の用意がなかつたので、彼等は朝起きると熱い風呂に入つて温り朝食をすませて仕事に行く、夕方歸ると又熱い風呂に入つて温り食事をして寝る。夏冬共に半纏一枚しか持たなかつた彼等は熱い風呂が着物の代用をした。彼等がこんな簡易な生活によく堪へ得たのは、性と賭博の自由があつたからである。又、彼等が簡易の生活をしてくれたからこそ、物資の需給も円滑に行き、物價の調節もとれたのである。

夫れで、現代に於ても此の手を再生させ、娼妓を國有にし、共産軍の女子慰勞隊のやうな組織で各工場其の他に分遣すると共に、國民に賭博を普及奨励して各工場其の他へ賭場を設けたならば、これに依つて彼等の餘計な金の大部分を吸収

する事ができ、如何に公債を増發してもインフレに落ちる心配がなくなる。物資の需要は円滑に行く。支那でも昔から此の手を使つてゐた。露西亞では、其の形式が非常に変つてゐるが、同様に此の原理に立脚して物資の調節と資金の吸収となしてゐる。

此の売春國策といひ、賭博國策と言ひ、動機と結果とは純であり、正義であり、非常時國策とは一致するのであるが、其の手段が餘りに人間の弱点に乗じすぎてゐる。勿論、工夫の如何に依つては相當に合理化し、正義化する事ができる。殊に、公私娼の稼げは稼ぐ程借金が多くなるといふ不合理は國營に依つて一掃され且つ、豊富低廉に供給する事ができるであらう。が、如何に之が合理化し、正義化するとも皇道日本のなすべきとでない。併し、此の方法は、國民に働くだけ多く働かせて無駄な消費を防止するには最も有効な方法である。故に、馬匹の改良の爲めに馬券さへ許可する日本は、此の非常時に際して多少此の原理を應用する必要はないであらうか。

次に、需要慾を刺戟するやうな品物を盛んに製造せしめては、如何に政府が努力しても、物資の消耗は増加し、供給に支障を來す。

物資の消耗率を減じ、供給を円滑ならしむるには、流行を禁止し、需要慾を刺戟せぬやうにしなければならぬ。

流行の変化は自己表現の慾情から發生する事で、利益とは無関係である。野蛮人でも裝飾を好むに至る心理は、自己と同輩と區別せんとする熱情より來る。初心な民族と貿易して巨額な利益を獲る秘訣は、彼等の自己表現に適するやうなものを携帯する事である。彼等の虚栄心が鋭く動く時には所持してゐる總ての物品を取り出して之と交換し、自己表現の方便にする。

文明人に於ても野蛮人と同一の性情を有し、優者は自己の優越を表現して劣者と區別を立てんとする。劣者は優者と區別を立てられて劣者の刻印を捺されぬやうに優者を模倣して同一たらんとする。併し、更に優者の不均一にせんとする性情は、劣者と區別を立てんとするの努力を開始する。優者の劣者との區別を立てるとが烈しくなればなる程、劣者の模倣も益々機敏になる。之が流行の現象である。

乃ち、流行は改革と模倣、區別と一致とが交互に來、優者と劣者とが差別と平等とで争ひ現象で、利益問題とは無関係である。併し、『風潮に伴ひ』の言葉にて表はされた如く、流行を追及する本能は深く人間生活を支配してゐる。人間は流行の影響を蒙らずに居られない。人間は一面から見れば流行の奴隷である。物資の實用に適するや否やを忘れて流行のまゝに選擇する。優者の趣味とか癖とか無批判で劣者に模倣される。物品の製造に就て最も大事なとは、其の製

品を社会の上層若しくは都会で消費されてゐるやうに見せかけるとである。上流又は都会地の流行だと云へば、無批判的に之に追従せんとする。

優者が劣者と區別を立てんとする新型を作るとが烈しくなればなる程、劣者も優者に劣らじと足並を早くして之を模倣せんとする。然るに、近來、膺物が發達して本物と寸分も違はぬ精巧なものが安價に得られるやうになつた。それで、優者が本物を以て區別を立てれば、劣者は膺物を以て應對する。それに機械工業等が發達して生産力が充實し、殆んど總ての物質が低廉になつたため、劣者の模倣力は著しく増大して來た。以前は、衣服の如きも堅牢第一のものを拵へ、親子より子より孫へと譲られてゐた。流行に従つて之を捨てるといふとはなかつた。が、今は、下層者と雖も流行を追ふために、衣服の如きも一二月の使用に堪へればよいとする。此の要求に應じて、徒らに虚栄心のみを刺戟する粗悪な品物がどしくと市場に出る。財源の大部分は流行のために浪費せられる。人間精力の大部分も流行品の製造に浪費せられる。原料の大部分も直接か間接かで流行品の製造に消耗せられる。

人間の價値は、道具立とか、装ひとかに依つて決定するのでなくして、智力とか学識とか性格とか功労とか個人の過去の経験及び現在の實力に依つて決定せられる。従つて、自分自身に對する價値は之等に依つて發見せられ、虚栄の満足に

に依つて發見せらるべきものでない。流行の追及、それ自体は何の價値もない原始的の熱情で、國家社会の進歩とは無関係のものである。否、かゝる原始的の熱情にかられ、流行の変化と之の追及とを自由ならしめ、國家的にも個人的にも勢力を消耗せしめるとは、却つて、文明の進歩と背馳するものである。故に、若し政府が原始時代より遙かに其の文明が進歩してゐるといふことを認めたらば、流行を禁止し、之の追及を煽動するものに嚴訓主義を以て臨まなければならぬ。現在の我が政府の如く、流行の追及と之の煽動とを自由ならしめてゐるのは、たゞに國家的にも個人的にも貴重な財貨を消耗せしむるのみならず、我等を原始人と同一視して侮辱するものである。政府も此の際に自覚して流行を禁止する政策を採つたならば、物資の需給も円満となり、物價の調節もよく行はれるに至るであらう。売春國策や賭博國策の如き方法を採らなくとも、此の流行の禁止だけで總てが円満に解決するであらう。

古來、流行の禁止に依つて容易に消費の節約が出來、需要供給を円満ならしめた例は東西に澤山ある。

總じて階級制度の嚴重な社会では、劣者が優者の風を模倣せんとする考へは比較的に乏しい。又、優者は劣者をして自分達に模倣せしめないから、優者は改めて劣者と區別するため新型を拵へる必要はない。かゝる社会では、絶体に流行が

ないといふ理ではないが、流行の変化は非常に緩慢である。

二三

又、都市の病的發達のない、動搖の少い、堅実な社会は流行の変化が緩慢である。堅実な社会に於ては、國民の價値を外形の異同、身なりの優劣に依つて決せず、各自の價値を人格の内容に依つて決した。従つて、如何に流行を追及したところが、自他共に其の價値を感せぬから、流行に勢を持つことができぬ。流行が緩慢であれば浪費が行はれず、個人的にも社会的にも國民の生活の内容が充實する流行のない國の服装は、多くの場合、自由主義國家の不定の型の服装より健康味があり、且つ、其の國民の誰にも似合ふやうに工夫されてゐる。それと共に、餘り費用もかゝらず、如何なる不景気でも乗り切れるやうに試験済である。

此の様に、階級制度は一面流行を禁止する手段として發達したのであつた。産業が發達せず、物資の供給に悩んでゐた旧時代に、消費を煽動せしめたり、流行を自由に許したりすれば、社会を動搖せしめ、全体が饑餓しなければならぬ。かかる社会又はかかる事情に立ち至つた社会では、流行を禁止したり、階級を設けて競争的消費を禁止するのが定石である。

日本が、僅の國土で物資も乏しく、對外貿易は勿論、國內貿易さへも困難であつたに不拘、多くの國民を養はねばならなかつた。此の爲めには國民自身も進んで節約せねばならなかつたし、又、政府も節約を強要せねば、需給と價格との調

節をなすことができなかつた。此の爲めに、先づ、流行を禁止して消費を自然に節約せしめた上、階級制度を布き、流行發生の餘地をなくした。只、大都市の一部のみに僅に緩慢なる流行があつただけである。當時は、各階級共に、費用の節約は、自然的にも、自律的にも、法規的にも嚴重に強いられてゐた。階級に依つて家は大きさから形状まで制限され、衣服は地質から色、縞、柄まで制限され、其の他、食物、履物等の日用雜貨まで一々制限され、其の範圍を超えることができなかつた。若し、之を超えろものがあれば重刑に處せられた。日本の其の節約に關する制度の精密なるを世界の何れにも發見することができぬ。自然的にも法律的にも自制的にも節約が行はれてゐたから、衣、食、住其の他の日用の物資が一つとして豊富なものがなかつたに不拘、よく自給自足に堪へ得たのである。

則ち、英國が自給自足時代には総人口が四百五十万以下しかなかつた。十七世紀のクロムエルの革命當時で、総人口が五百五十万以下しかなかつた。然るに日本は、種々の議論もあるが、平安朝以來明治初年まで、自給自足にて三千万以上の人口を左程の増減もなく維持して來たとは、種々の材料にて證明することができる。物資に乏しく、且つ、地域の狭い日本が、自給自足にて三千万以上の人口を十年以前より維持して來たとは、人類文明史上の大驚異である。これは流行禁止を中心とした消費節約の制度が徹底してゐたからである。これに關する諸制度は小泉八

三三

雲等に依つて既に明治時代詳細に欧米に報告され、学界及び政治家にて注意されてゐた。併し、資本主義的の欧米諸國は、境遇之を模倣することができなかつた。流行を禁止し、消費を節約させたなら、資本家はあがつたりであり、従つて、資本主義の上に建設せる國家も崩壊しなけれはならぬ。

然るに、世界大戦の末期に當り、露西亜に於ける革命が成功し、共産党が政權を獲るや、先づ第一に、物資の缺乏を緩和せんがため、日本の過去に於てなした如く、流行を禁止し、又、消費の限度を定め、浪費を防止した。若し、ソ聯が流行と浪費とを禁止しなかつたならば、自給自足主義の經濟政策は完全に破綻を來してゐるか、人口半減したかしたであらう。ソ聯の政權は見方に依れば、國民生活を円満ならしめんがため、消費節約の機關として存在してゐるかのやうである。又、戦後の獨逸も、ソ聯と同様の理由で、日本の經驗に追従せざるを得なかつた。

獨逸は世界大戦に依つて、植民地は奪はれ、對外貿易の機關も破壊された。其の上、世界の憎悪の中に置かれ、積極的に援助してくる國は一つもなかつた。否でも應でも自給自足、自力更生せねばならなかつた。これが一切を國家の下に統制し、個人の消費すべき物資の數量まで割當て、凡ゆる方法で其の限度を超えぬやうにした。自我が強く、且つ、自由を愛する獨逸人は、ソ聯の如き表面的の

嚴重な流行と浪費との禁止をなすことができなかつたが、それだけ精巧な裏面的の工作をなした。彼等は、奢侈や虚栄や流行の對称となるものを、之の對称とする價値を奪つて了つたので、自然に奢侈も虚栄も流行も勢を失ひ、國民は実用品以外は要求しなくなつたのである。

獨逸、露西亜が非常時を突破するために拵へた総ての制度、計画は何れも日本の經驗した處のものである。只、其の個性の上に此の原理を綜合したため、個性の相違に依り形式的に多少の相違をしてゐるだけである。此の際に日本が非常時を突破せんとするには、先づ、日本自身の經驗を学び、之を現代日本に調和せしめなければならぬ。自己を學ばずして獨逸を真似たり、露西亜を真似たりするとは意味をなさぬ。

然るに、我が政治家や役人達は之を理解せず、旺んに獨逸や露西亜を模倣してゐる。而も、其の模倣の仕方たるや、宛然猿真似で、少しも日本の個性の上に立脚せしめるところを知らぬ。我等の政治家や役人に對して最も嫌焉たるものは、何事を處理するのでも、欧米の何れの國かの考へ方に自己を導いて、欧米的手段とに引き直さなければ文明でないとして信じてゐる。日本の個性を尊重し、日本の手段をとるとは封建的であり、野蠻的であると考へてゐる。それで、何をするのであつてもやゝこしくて能率をあげることができぬ。假令、日本が、露西亜に模倣し、獨逸

に模倣しても、之を日本の個性の上に綜合したならば、結局、我等の先祖の創造した制度や方法と殆んど一致してくる。故に、此の非常時を突破し、物資の需給と價格の調節とを円満ならしめんとすれば、先づ、流行を禁止し、節約の徳を行はしめなければならぬ。

流行がなくなれば、原料代と製品の價の開きが概して非常に少くなる。同じ原料を使用し、同じ丈夫さであっても、次々と流行が変化するものは、模倣や意匠に非常に費用がかかり、これが價格に加算される。それで、流行品は、品物よりも模様や意匠を売買してゐるやうなものである。品物の模様や意匠が虚栄心を刺戟するものであつたならば、金を惜しまずに之を買ふ。物資は常に模様や意匠の犠牲になつて浪費されてゐる。それで、若し、流行を禁止したならば、假令、原料が高くとも、加工費が低下し、却つて、物價は安くなるであらう。其の上、更に節約の徳を養はしめ、品物を大切に習慣をつけさせたならば、物資の消耗率は益々低下するであらう。今や我々は原始人ではない。いつまでも淺薄な虚栄心の追及をなすべきでもなく、又、之を追及せしむべきでもない。淺薄な流行に制限を追へてこそ國民を外面的にも内面的にも向上せしむることが出来る。又、政治も法律も暴力のみでなく、國家のためにも國民のためにもなるといふことを證據立てる理である。

而して、流行を禁止するには、只、法律で之を禁止し、政治で之を取締るだけでは徹底せぬ。淺薄な流行を惹起せしむる不健全分子を先づ取除かなければならぬ。此の意味に於て、カフエーの如き種類の營業を禁止すべきである。

女給達は職業的能率をあげるために自己表現を上手にやらなければならぬ。美貌で、且つ、かうしたとに長じてゐる彼女達は精巧な安物を以て、自己表現の方便にしても常に非常な効果を顕はし世間の目をひく。餘り金のない彼女達は他と區別を立てる自己表現をなすには次々と流行を拵へなければならぬ。毎日のやうに新規のものと取り替へなければならぬ。次々に新規なものに取り替へるには、古いものを惜しみなく捨てなければならぬ。それには丈夫さは問題でなく、安價なるものが絶対條件である。かうしたとを條件とする女給及び類似の職業婦人が今や全國に五十万に及んでゐる。彼女等の此の集團的活動が流行の現象を惹起し、流行の総てが低級な女給趣味になつて了つた。男子の持物でも女給達にもてるために女給趣味を取り入れてある。かうした事情が見掛倒しの内容のない物品の製造が發達して原料の消耗を甚大にした。

則ち、現在の物品の製造は、見かけと流行とのみに重点を置き、堅牢さに就ては彼等共に少しも關心を持たぬ。此の傾向は反物類、日用雜貨類に甚だしい。見方に依れば、現代文明は女給文明と言つてもよい程である。これ等の製造が餘り

に女給趣味に迎合して、安くはあるが直ぐ駄目になる。素人の娘も時代の風潮に伴つて女給の着るやうな着物が着たい。併し、こんな着物を着て仕事をすれば一日で破れて了ふ。勢ひ時代と没交渉な実用本位の着物を着なければならぬ。これが辛く、女給生活を懐かしめ、カフェエの發達に拍車をかけ、社会全体を不健全ならしめた。若し、カフェエ及び其の類似の營業を禁止したならば、忽ち、粗製濫造が止み、原料や製品の浪費がなくなり、社会も健康となるであらう。且つ、又、女性達も人絹の着物やパーマネット等の下らぬとで苦勞したり、不衛生な洋服や靴を用ひなくともすむやうになり、此のために消耗してゐた精力を、國家社会の進歩に貢獻する方面に切り換へることができらうであらう。

流行が禁止されれば、品物は堅牢に製造され、自己發現の慾情は、内面的又は堅実に向つて進む。物品に對しても、永く使用に堪へ、内面的に發達せる物程、購求の對称となる。我が國の織物類は結城を始めとしかうした要求の下に發達したのである。これを着たものは、只、高價な濫いものを着てゐると自分自身が満足するだけで、決して貧乏人の虚栄心を刺戟しなかつた。又、貧乏人は、本物の結城を着ても木綿と見られるので、多額の金を出してまで之を購求せんとする慾望が出なかつた。つまり、日本の旧時代の高級織物は丈夫一方の本綿の屑物であつた。貧乏人が屑物に多額の金を出すよりも、安くて丈夫な本物を買つたのであ

つた。則ち、旧時代は、上層が屑物に多額の金を出して之を用ひ、下層が少額の金を出して本物を用ひ、而も、其の上に、原料の消耗の節約も、製品の浪費の防止もできた。現代は此の反對で、上層へ低級な本物を與へ、下層へ一日で使へなくなるやうな屑物を與へ、而も、原料や製品の消耗を甚大ならしめ、個人的にも國家的にも悲鳴をあけてゐる。旧時代と現代と何れが良政治であるか、三歳の童子と雖も判ることである。

物資の需給と價格との調節は、流行の禁止が最も道德的であり、且つ、根本的であるが、これを更に有効ならしむるためには、國民をして節約ならしめなければならぬ。節約に於ても、先づ、國民を自發的に節約ならしめ、法規的にも道德的にも節約ならしめて始めて可能である。只、物資の割當制だけを以て節約の實をあげんとする如きは愚の至りである。彼等は國民の自發的協力と道德的協力が如何に大なる力を有するか知らぬのである。此の節約制にしても、只、法規的の割當制を布くよりも、國民をして自發的に、道德的に協力せしめなければならぬ。國民をして自發的に道德的に協力せしめるには日本人の個性を理解しなければならぬ。日本人の個性を理解し、彼等を本能的に精神的に自然的に統制するものが國民の協力を得るとである。

日本人は、世界中、些かも掛引のない、一度強く誓へば之を実行する民族であ

る。旧時代では此の日本人の元天性を利用して『誓文』の制度が發達した。此の『誓文』の制度を除外しては日本文明を理解する事は不可能である。これは日本人の正直と率直との基礎の上に立脚したもので、簡單であるが非常に効果的であつた。これが非常に効果を現はしたから、形式的な法律や制度の發達の必要がなかつた。若し、何かの必要で法規でも制度でも存へる場合には此の『誓文』を中心とし、これに抵抗するやうなものは存へなかつた。此の節約問題でも割當制を以て法規的に上から強制せんとするよりも、國民の自覚と國家に對する忠誠とを内容とする『誓文』を以て節約せしめなければならぬ。國家は節約を誓文せぬやうなものには、原則として品物を與へぬ。節約は誓文するものは多くは節約を實行する。これが日本人の面目であつて、實に、家庭生活の場合と同様である。家庭に於て、家族が物品を購入するに際して一々許可を與へ、其の品を大切にすることを誓はしめる。さうせむは一家の經濟が成立たぬ。これと同様に、國家經濟を円滑にするには、原則として、國民の物品の購入に際し、許可を與へ、且つ、之を大切にすることを誓はしめなければならぬ。古來、我が國は此の原則の上に、物資の少い時には嚴重な、多い時には寛大な、夫々適宜な制度を布き、其の價格と需給を円滑ならしめたのであつた。而して、今や非常時にて國民に多くの物資を消費せしめる理に行かぬのである。此のためには日本の面目を發揮し、國民は

節約を嚴重に誓はせなければならぬ。さうすれば需給も價格も調節がとれ、例へば、棉布にス・フを混入せしめなくとも濟み、依然として三四十錢の價格の維持ができるであらう。其の方法は家族が家長に物品の購求に許可を求めたる如く、必要に依つて物品を購入せんとするものは願書を出させ、之に許可を與へるやうにするのだ。若し、之にて需要を充すができなかつたならば、其の許可を嚴重にしたり、保證人を立てさせたりすればよい。それでも間に合はなかつたら血判を捺させるやうにすればよい。さうすれば、餘程必要でなければ購入しなくなる。此の願書は警察又は駐在所で取扱はせるやうにすれば、簡單にして不正の弊もないであらう。

如何に非常時と雖も眞の必要に際しては、何人に對しても、何物をも充分に、且つ、可及的に無償にて利用せしめなければならぬ。これが家族主義の日本の面目である。殆んど、私用や奢侈的に大部分利用してある役所の自動車でも、國家の爲めにのみ使用するといふ独断の下に、國家は無償に無税で使用せしめてある個人に於ても、役人達以上に國家のため有効に使用するものが沢山ある。又、個人的に使用する場合と雖も眞に必要な場合がある。かゝる場合には品物でも金貨でも可及的に無償にて、少くとも安價にて使用せしめたり、與へたりしなければならぬ。

然るに、現在、政府の行つてある割當制では、一般の價格を吊り上がり、眞の必要に迫られるものに之を與へたり、利用せしめたりせぬといふ無慈悲が行はれるのである。家族主義の我が國の役人は、陛下の一分子となつて活動せねばならぬ。其の活動が親心の現れでなければならぬ。彼等のなす事は其の使命に背馳して國民に無慈悲であり残酷である。此の問題に於ても親心を出し、飽くまで物價を下げて眞の必要者には安價に與へなければならぬ。只、之を奢侈や虚栄の爲めに使用せんとするものに對してのみ禁止せしめたり、高價ならしめたりすればよい。茲に於て、許可制度と届出制度とが必要となる。

則ち、前述の如く、眞の必要者には許可の形式をとるが、奢侈や虚栄の爲めに使用せんとするものには、相當額の収入印紙を貼つて購入又は使用の届出をせしめ、購入券又は使用券を貰はねば購入も使用も出来ぬやうにするのだ。例へば、待合や劇場から自動車を馳らせんとするには、二三日の収入印紙を貼つて使用券を貰はねばならぬやうにするのだ。

奢侈や虚栄は、人間生活の總ての方面に於て充される。唯一方面にのみ課税して安心するが如きは阿蒙の甚だしきものである。若し、政府が此の収入印紙を利用せしめたならば、廣範圍に亘つて奢侈や虚栄に課税にすることができらうであらう。又、國民に合理的の生活をせしむることもできらうであらう。軍需工業の人達は日本

より独立して米國や英國あたりの会社の人達と違はない。彼等は、多数の勇士が出征してゐるをも、其の遺家族が如何に困窮してゐるかといふことも知らぬ類をして奢侈と享樂に耽つてゐる。こんなま盲を正し、奢侈も享樂もせぬ正當な生活をしてゐるものに對して不安のないやうにしてやらなければならぬ。

又、此の収入印紙の利用に依つて、品物の値と税金とをばつきり判別せしめることができる。物價と税金とをばつきりさせれば、之を口実に物價を吊り上げることもできず、又、物價高の感と與へぬ。物價を昂騰ならしむる原因を少しでも除去するやうにしなければならぬ。

此の割當制は、要するに、與へられたる數量にて需要を充さんがために布いたものである。併し、與へられたる數量にて需用を充す方法としては、既に證明せられたる如く、策の拙の拙たるものである。此の目的に達するには他に上策はなしある。然るに、此の拙の拙たる策を用いてゐる結果、物價は暴騰し、國民生活を不安ならしめ、海外輸出は減少し、國際經濟を不利ならしめた。

これは彼等の悪意に出發したものでないとは明かであるが、日本の事を總て西洋的に引き直して考へなければ野蠻だといふ恐るべき迷信の亡者となつてゐる結果である。若し、彼等が此の迷信から此の際脱却することができれば、唯それだけでも日本は大いに改善されるであらう。

昭和十三年四月二日印刷
昭和十三年四月四日發行

發行兼
印刷人

藤本保之助
東京市芝区田町二ノ二

發行兼
印刷所

東京市芝区田町二ノ二
藤本保之助

終

